

# リアホナ



表紙の記事——  
親の務めを果たすこと  
——この世で最も  
偉大なチャレンジ  
2ページ

どのように答えたら  
よいでしょうか  
——モルモンは  
クリスチャンですか？  
36ページ

ヒーローを選ぶ  
「フレンド」14ページ

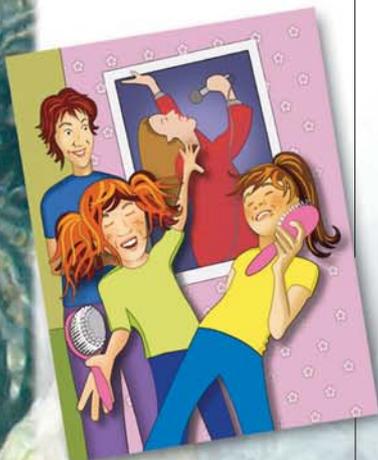
# リアホナ



表紙  
写真/クリスティーナ・スミス、  
写真はイメージです



「フレンド」表紙  
絵/タイア・モーレー



「ヒーロー」  
「フレンド」14ページを見ましよう

## 一般

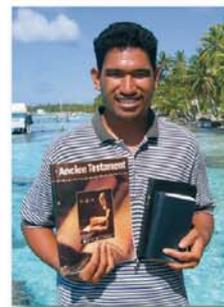
- 2 大管長会メッセージ— 無数の愛の糸 第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 8 家族を強める— 対等のパートナーとして
- 10 証の力 七十人 ジェイ・E・ジェンセン
- 14 ポリネシアの真珠 リチャード・M・ロムニー
- 25 家庭訪問メッセージ— 永遠の家族に関する知識を喜びとする
- 26 神権の鍵<sup>かぎ</sup> 十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン
- 34 教義と聖約からのメッセージ  
— あなたがたの喜びはいかに大きいことか 地域七十人 ロドリゴ・ミラ
- 44 末日聖徒の声  
哀れみの気持ちに満たされ フアン・アルド・レオーネ  
ヘッドライトに照らされたシカ アーリーン・ハウスマン  
什分の一を納められるだろうか アナ・クリスティーナ・メリノ・リバス  
「モルモン出入り禁止」 匿名
- 48 読者からの便り

## 青少年

- 22 質疑応答— 家庭の夕べ、家族の祈り、そして家族の聖文研究をするよう  
家族を助け励ますにはどうしたらよいでしょうか。
- 31 揺るぎない改心 バーツラフ・スボボドバ
- 36 君はモルモンなの? アナ・リー・グラニエラ・ロベス
- 40 セミナリーに飛び込む アダム・C・オルソン

## フレンド

- F2 預言者の声<sup>よげんしゃ こえ</sup>— ゆるすこと  
大管長<sup>だいかん</sup> ゴードン・B・ヒンクレー
- F4 分かち合いの時間<sup>わかちあひ じかん</sup>— わたしはいつもせいきをえらびます  
マーガレット・リファース
- F6 デビッド・O・マッケイだいかんちょうのしょうがいから  
— ルー・ジーンのためのいのり
- F8 小さなお友だちへ<sup>ちい とも</sup>— 福音は幸せにしてくれます  
地域七十人、ジーン・A・テファン
- F10 歌<sup>うた</sup>— 回復された真理<sup>かいふく しんり</sup>  
アラン・L・ジョーンズ・ジュニアとルートビツヒ・ファン・ベートーベン
- F11 正しいえらび<sup>ただ</sup> ジュリー・ワーデル
- F12 わたしの福音の標準<sup>ふくいん ひょうじゆん</sup>のしおり
- F14 ヒーロー キンバリー・ウェブ



「セミナリーに飛び込む」  
40ページ参照





### 「スコットランド、スターリングのバック・オブ・ヒル・ロード」ダイアン・ディーン画

1898年、スコットランドで伝道していたデビッド・O・マッケイは、この建物の右上の角にある石板が目にとまった。そこに刻まれていた言葉——「あなたが何者であろうとも、自らの務めを十分に果たしなさい」——から靈感を受けたマッケイ大管長は、こう述べた。「それは、宣教師としての自分の務めを十分に果たしなさいという、その朝わたしに与えられたメッセージでした。」

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)  
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,  
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バックナー, L・トム・ペリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オークス, M・ラッセル・バラード,  
ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホルランド, ヘンリー・B・アイリン  
グ, ディーター・F・ウーグトルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ゼンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, ゲーリー・J・コールマン

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・ハ  
ラー, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリン・ポーター・  
ガント, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャ  
リー・カステル, メルビン・リービット, サリー・J・オデカーク, アダム・  
C・オルソン, ジュディス・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・  
サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス,  
ポール・バツテンバーグ, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェーブ

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・パン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ピーターズ

デザイン・制作スタッフ:ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド,  
レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カー  
ビー, タッド・R・ピーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッ  
ド, クラウディア・E・ウーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙」でお申し込みになるか、郵便振替  
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-  
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵  
送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ  
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キ  
リスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール:cur-iahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下  
の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, ウクラ  
イナ語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバツ語, クロ  
アチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, セ  
ブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デ  
ンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ノルウェー語, ハイチ語, ハンガリー語,  
フィンランド語, フィンランド語, フランス語, ブルガリア語, ベトナム語, ポーランド  
語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リト  
ニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本

「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭におい  
て臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている  
場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、  
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150, USA に郵送するか、電子メール—  
cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。  
英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月

原題—International Magazines October 2005.

Japanese. 25990 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で  
掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をク  
リックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:

October 2005 no. 10 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729)  
is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50  
East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA subscription price is  
\$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage  
Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days'  
notice required for change of address. Include address label from a recent  
issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian sub-  
scriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below.  
Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa,  
MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post  
Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center,  
Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

「リアホナ」の活用法

# 家庭の夕べのための アイデア



クラスや家庭において、  
『リアホナ』を使ってより効  
果的に福音を教えるため  
に、このページに提案され  
ているアイデアを役立てる  
ことができます。

「**神権の鍵**」26ページ——運転免許  
証などの許可証を準備しておきます。  
それを見せ、許可証を持つことの大切  
さについて話し合ってください。医師  
の免許を持つラッセル・M・ネルソン  
長老がどのような特権と責任を与えら  
れているかについて読んでください。  
家族一人一人が、記事の中から適当  
な部分を選んで、神権の鍵について教  
えます。神権の鍵を持つ人々によって、  
これまでどのような祝福を得てきたか  
話し合ってください。

「**あなたがたの喜びはいかに大きい  
ことか**」34ページ——教義と聖約  
18:13-16を一緒に勉強します。こ  
の聖句を読んで感じたことを話すよう  
家族に勧めてください。ロドリゴ・ミラ  
長老の話の声に出して読みます。この  
記事の終わりにある3つの原則につい  
て証をします。

「**君はモルモンなの?**」36ページ——  
この話の最初の6段落を読み、同じよ  
うな状況に立たされたらどうするか、  
家族に尋ねます。この話の結末をどう  
思うか聞いてください。教会について  
尋ねられたときに、どう答えたらよい  
か話し合ってください。この記事の場  
面を演じて、答える練習をしてみま  
しょう。

「ゆるすこと」F2ページ

——主人公の農夫について  
話し、この農夫が死んだとき  
とても不幸だったのはなぜ  
か話し合います。最後の段  
落を声に出して読み、赦す  
ことによって平安が得られるというこ  
とについて証をしてください。人を赦  
すことを思い出すしるしとして、家族  
にひもの切れ端を渡します。

「ヒーロー」F14ページ——家族の

皆に、あこがれている人の名前を聞き  
ます。また、その人にあこがれる理由  
も話してもらいます。物語の中で、少女  
が歌手にあこがれるのをやめようと思  
うようになったのはなぜでしょうか。ど  
のような人を自分のヒーローにするべき  
か話し合ってください。だれを理想に  
するべきか考える際に役立つ聖句を紹  
介してください(例えば、3ニーファイ  
27:27, モロナイ7:16-17参照)。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛	2	初等協会	F4
証	10, 31	神権	26
哀れみ	44	神殿と神殿活動	14, 25
イエス・キリスト	44, F4	救いの計画	F4
祈り	22, F6	聖文の研究	22
教えること	1, 2, 10	セミナー	40
親の務め	2, 8	選択の自由	F4
改宗・改心	31, 34	備え	26
回復	F10	知恵の言葉	F8, F11
活発化	34	伝道活動	34, 36, F8
家族	2, 8, 22, 25	標準	F12, F14
家族歴史	25	保護	44
家庭の夕べ	1, 22	ホームティーチング	
家庭訪問	25		7, 34
教会歴史	14	ポリネシア	14, 40, F8
幸福	F8	メディア	F14
子供	2, 8	模範	36, 44, F8, F14
指導性	26	友情	44
自分	44	ゆるすこと	F2
ジョセフ・スミス			
	25, F10		





だい に ふく かん ちょう  
第二副管長  
ジェームズ・E・ファウスト

お や  
**親**であるということは、この世で最大の課題です。事実、親というテーマに関しては親の数と同じくらい多くの意見があり、すべての答えを知っていると言える人はほとんどいません。わたしもちろんそう言うつもりはありません。

わたしの一生のうちで現在ほど、教会員の中に優れた若い男性や女性が大量にいることはないように思われます。これはすなわち、このすばらしい若人のほとんどが、責任感が強く愛情深い両親のもとに、良い家庭で育ったことを示しています。しかし、どんな良心的な親の中にも何か間違いを犯したように感じている人もいます。以前わたしが愚かなことをしたとき、母が「どこで子育てを間違ったのかしら」と嘆いたのを覚えています。

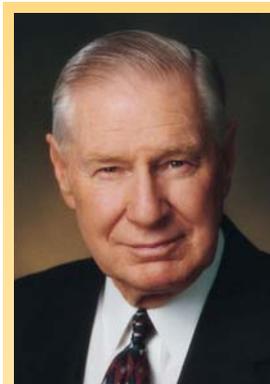
主はこのように教えておられます。「あなたがたの子供たちを光と真理の中で育てるよう……。」<sup>1</sup> わたしにとって、親であること以上に大切な務めはありません。父親、母親の務めは大きな課題であるばかりでなく、神聖な召しでもあるのです。献身的な努力を要する務めです。デビッド・O・マッケイ大管長(1873-1970年)は、親であることは「人類に寄せられてきた

もっと いたい しんらい の  
最も偉大な信頼]であると述べています。<sup>2</sup>

おお くだい  
大いなる課題

ひと で あ くだい よ おや いじょう  
人が出会う課題で、善い親であること以上に大きなものはほとんどありませんが、これほど大きな喜びを与えてくれる機会もほかにありません。確かに、神を敬い、幸せて、尊敬すべき、社会に役立つような子供を育てること以上に重要な仕事は、この世にないのです。親にとって、子供が自分たち両親を敬い、自分たちの教を尊ぶこと以上に満たされた幸福はないでしょう。それは親である者が受ける栄光です。ヨハネはこう証しています。「わたしの子ども しんり ある き 子供たちが真理の道を歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」<sup>3</sup>

わたしの考えでは、子供を教え、育て、訓練することは、人生で直面するいかなる課題よりも、知性や直感的な理解力、謙遜さ、力強さ、知恵、霊性、忍耐力、労力をさらに必要とします。これは、名誉や礼儀といった道徳の基礎がわたしたちの周りで崩れている現代には、特に当てはまります。実りある家庭を築くには、正しい価値観を教え、規則を守り、標準を維持し、揺らぐことのない信念を持たなければなりません。親が道徳の価値を教え、尊ぶことに対し、多くの社会ではほとんど助けを与えていません。たくさんの文化が価値観を失い、



たし 確かに、  
かみ うやま しあわ  
神を敬い、幸せて、  
せんけい 尊敬すべき、  
しゃかい やくだ  
社会に役立つような  
こども そだ いじょう  
子供を育てること以上に  
重要な仕事は、  
この世にないのです。

大勢の若人はそのような社会の中であって道徳に不信を抱き始めています。

### 最大の願い

社会全体が腐敗し、道徳的標準がないがしろにされ、多くの家庭が壊れている昨今にあって、わたしたちの最大の願いは、次の世代すなわち子供たちを指導することにいっそうの注意と努力を傾けることです。そのためには、まず子供たちの主要な教師を強めなくてはなりません。最も重要な教師は親と家族であり、最良の環境は家庭にあるはずで。わたしたちはさらに努力し、何とかして家庭をもっと堅固なものとする必要があります。周囲にはびこる忌まわしい退廃に対する聖所とするためです。家族のむつまじさ、幸福、平安と愛は、人生の問題に立ち向かうのに必要な強い心を子供に与えてくれます。ジョージ・ブッシュ元合衆国大統領夫人のバーバラ・ブッシュはかつて、ウェルズリー・カレッジ卒業生に向かって次のように述べました。

「どんな時代であろうと、どんな時勢であろうと不変のものが一つあります。父親、母親である皆さん、子供があるならば、まず子供たちを優先しなければなりません。本を読んだり、抱き締めたりして愛を示さなくてはなりません。家族としての皆さんの成功、社会としてのわたしたちの成功は、ホワイトハウスではなく、皆さんの家庭の中で起こることにかかっているのです。」<sup>4</sup>

善い父母であるためには、子供の必要を満たすために自分自身の必要や望みを後回しにしなければならないことが多くあります。このような犠牲を払うことによって、誠実な親は品格を高め、救い主御自身が教えられた無私精神という真理を実行することを学びます。

一人で家族をまとめるために困難をものともせず、奮闘し、犠牲を払い、苦勞している人たちをわたしは大いに尊敬しています。そのように英雄的な努力をしている方々をこそ、称賛し、助けるべきです。しかし母親または父親のいずれの務めも、それぞれの役目を果たす親がいればずっと容易になります。子供たちは両親双方の力と知恵を試したり要求したりすることがよくあるのです。

何年も前、スタンリー・スムート監督はスペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)の面接を受けました。キンボール大管長はこう尋ねました。「1日にどれくらい家族と一緒に祈りますか。」

スムート監督は答えました。「1日に2回は家族で祈ろうと思っていますが、たいてい1回になります。」

それに対してキンボール大管長は答えました。「これまで、家族の祈りを1日に1回することで大丈夫だったかもしれませんが、しかし家族を救うつもりならば、将来それでは足りなくなるでしょう。」

家庭の夕べをたまにしか行わないなら、将来子供たちを十分な道徳的強さで守れるかどうか疑問です。また家族の聖文研究を定期的に行わないなら、子供たちに美德を身につけさせ、彼らが将来住む社会の退廃に十分抵抗させることはできないでしょう。子供たちが純潔、誠実、正直や人間としての基本的な礼儀を学ぶ所が、この世の中で家庭以外にあるでしょうか。こうした価値観はもちろん教会でも教えられますが、親はもっと頻繁に、絶えず教えることができるのです。

親が子供に危険を避けるように教えるとき、「わたしたちは世故にたけていて賢いから、危険な誘惑に近づいても大丈夫」などと言うのは愚かなことです。親の偽善を見ると子供は疑い深くなり、家庭で教えられたことに不信を抱くようになります。例えば、子供には禁じている映画を親が見るならば、親の信用はなくなります。子供に正直であるよう期待するならば、親が正直でなくてはなりません。子供に徳高くあるよう期待するならば、親が徳高くなければなりません。尊敬される者になるよう望むならば、まず自分が尊敬されるようになる必要があるのです。

そのほかにも子供たちに教えるべき価値ある教えがあります。両親や家族はもとよりほかの人を尊敬すること、人の信仰や愛国心を尊ぶこと、法律や秩序を守ること、人の所有物を尊重すること、権威ある人に敬意を払うことなどです。パウロは子供たちが「まず自分の家で孝養をつく[す]……ことを学[ぶ]」<sup>5</sup>べきであると述べています。

### 適切なしつけ

親にとっていちばん難しい課題の一つは、子供たちを正しくしつけることです。育て方は子供の個性によって違ってきます。子供は皆それぞれ異なっており、独特です。一人の子供に合う方法だからといって、ほかの子供にも合うとは限りません。子供をいちばん愛しているその子の親以外に、しつけが厳しすぎるとか優しくすぎるとか言えるほどの分別のある人はいないのではないのでしょうか。親にとってそれは祈りの気持ちで識別すべき事柄です。確かに、最も大切で基本となる原則

は、子供のしつけは罰よりも愛によって動機づけられなければならない、ということです。プリガム・ヤング大管長(1801-1877年)はこのように勧告しています。「人を懲らしめるように求められるとしても、香油を塗って手当てを施せないほどの懲らしめは決して与えないでください。」<sup>6</sup> しかしながら、子供を育てるには指導としつけを欠かすことはできません。もし親が子供のしつけをしないならば、社会が親の意に反たしつけを施すことになります。しつけがなければ、子供たちは家庭の決まりも社会の規律もどちらも守ろうとはしません。

しつけの第1の目的は従順を教えることです。デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べています。「もし親が子供に従順を教えられず、家庭で人の言うことが聞けなければ、社会が従順であることを子供に要求し、服従させるだろう。それゆえに、もし家庭がまだその務めを果たしていないならば、無情にも社会が課する残忍で非情なしつけに子供たちを任せることになる。それよりも、親切と同情心、思いやりに満ちた家庭で教える方がずっとよい。」<sup>7</sup>

### 教える責任

子供たちをしつけ、責任感を身に付けるように教えるための不可欠な要素は、労働を学ばせることです。大人になるにつれて、わたしたちの多くが「わたしは仕事が好きです。人が働くのを何時間でも座って眺めていられます」と言った人ようになります。<sup>8</sup> ここでもまた、労働の原則を教える最良の教師は親自身です。父や祖父、おじや兄弟たちと初めて一緒に働いたとき、わたしにとって働くことは楽しみでした。きっと、手伝うというよりむしろ足を引っ張っていたに違いないのですが、それは楽しい思い出となり、学んだ教訓は非常に役に立っています。子供たちは責任感と独立心を学ぶ必要があります。リーハイが教えたように、子供たちが「思いのままに行動することが



でき、強いられることはない」<sup>9</sup>ように、親は時間を割いて教え、実際に行い、説明しているでしょう。

世界でも屈指の園芸家であるルーサー・パーバンクはこのように述べています。「もし、子供たちに対するのと同じ程度に植物の世話をしていたならば、わたしたちは雑草のジャングルに住むようなことになっていたでしょう。」<sup>10</sup>

子供たちもまた道徳的な選択の自由から恩恵を受けており、わたしたちすべての者は、進歩し、成長し、発達する機会が与えられているのです。その選択の自由によって、子供たちは利己主義、浪費、放縦、自己破滅などの不道徳な道を選ぶこともできます。子供たちはしばしば大変幼いうちから選択の自由を行使します。

子供に対し良心的で愛情深く、関心を持ち、できるかぎり正義の原則に従って生きてきた親の皆さん、どうか慰めを得てください。子供たちの行動にかかわりなく、皆さんは善い親なのです。人の話に耳を傾け、従い、教えを受け、学ぶ責任は子供たち自身にあります。親は必ずしも子供の過ちの責任を負うことはできません

## 子供たちをしつけ、責任感を身に付けるように

教えるための不可欠な要素は、労働を学ばせることです。労働の原則を教える最良の教師は親自身です。



**聖**典には、**親**は**子供**に「悔い改め……の教義」とともに「……生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと……聖霊の賜物」をおし教えるようにとあります。これらの真理は家庭で教えなければなりません。

ん。なぜなら、親であっても子供に善い行動を取らせることを保証できないからです。ソロモンの知恵やヨブの忍耐力さえ要するような子供もいます。

経済的に豊かであったり、子供を甘やかしたりする親は、しばしば特別な問題にぶつかります。そのような環境に育った子供は、親が自分の要求を満たしてくれるまでは親の言うことに従わず、ある意味で親を人質のように扱うことがあるのです。十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926 - 2004年)はこのように述べています。「子供に寛大すぎる親は、自分が子供をどうすることもできないという事実にすぐに気がつくでしょう。大勢の子供たちが親に甘やかされすぎたために問題を起しているのです。」<sup>11</sup> 働かずして得たものに対しては心から感謝できないのが人間の本性のようです。

子供が友人に受け入れられ、好かれることを切望し、びくびくしている親がいるという事実は、実に皮肉なものです。しかもそのような親に限って、自分の子供が仲間と一緒に間違ったことをしているのではないかと心配するのです。

一般に、家庭で親が実践している高い価値観を取り入れ、自分のものにしてしている子供は、麻薬やアルコール、性的不道徳から遠ざかろうと決心するものです。友達の悪い行いや飲酒、性的な不道徳、不誠実、不正直、その他の悪徳を魅力的に見せるメディアの巧妙な説得に遭って難しい決断をしなければならないときも、このような子供たちはたいてい親の教えを守ります。そのような強い若人は、ヒラマンの2,000人の若者に似ています。彼らは、「……母親から、疑わなければ神が〔死から〕救ってくださると教わっていた」のです。<sup>12</sup> 「そして彼らは、……母親たちの言葉を告げて、『わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません』と言いました。」<sup>13</sup>

### 神に対する堅固な信仰

子供の人生に親の教えや価値観をしっかり定着させるには、神に対する堅固な信仰が大きな力になると思われます。この信仰が自分自身の一部になると、子供は強い精神力を持つようになります。それでは、教えなけれ

ばならないすべての大切な事柄の中で、親は何を教えるべきでしょうか。聖典には、親は子供に「悔い改め……の教義」とともに「……生ける神の子キリストを信じる信仰、およびバプテスマと……聖霊の賜物」を教えるようにとあります。<sup>14</sup> これらの真理は家庭で教えなければなりません。学校で教えることはできませんし、政府や社会も奨励するものではありません。もちろん教会のプログラムは役に立ちますが、家庭の中でこそ最も効果的に教えることができるのです。

親が子を教えるには、特別な機会も、劇的な力強い状況もありません。わたしたちはこれを偉大な教師、救い主から学びます。ある作家は救い主についてこう述べています。

「キリストの生涯を通して見られる麗しさは、人目に付かないささいなすばらしい行為の積み重ねにほかならないのです。例えば、井戸のそばで女と話されたこと、……神の国に入るのを妨げるひそかな野心を若い役人に示されたこと、……弟子たちに祈りの方法を教えられたこと、……一晩中漁をして、凍え、疲れ、失望して岸に戻って来た弟子たちが朝食を取れるよう炭火をおこして魚を焼かしたことなどです。これらすべては〔キリストが〕どれほど人々に関心を示され、それがどれほど価値あるものだったかを容易に明らかにしてくれます。主は非常に具体的で、こまやかであり、小さな事柄に力を貸し、取るに足りないことにも心を砕いておられるのです。」<sup>15</sup>

親であることはこれと同様です。小さな事柄が大きくなり、愛や信仰、しつけ、犠牲、忍耐、労働など無数の糸によって、家族のつづれ織りができていくのです。

親が享受できるすばらしい霊的な約束があります。聖約を大切に守った勇敢な先祖たちになされたのと同じ神の約束を受けることができるのです。親が聖約を守るならば、神もその聖約を守ってください。こうして子供たちはこのすばらしい聖約と約束の祝福にあずかり、相続人となるのです。聖約の子供だからです。<sup>16</sup>

この世で苦闘し犠牲を払っている尊敬すべき親に神が祝福を与えられますように。忠実な教会員である親が守っている聖約を神が特に尊ばれますように、そして聖約の子供たちを見守ってください。■

注

1. 教義と聖約 93 : 40
2. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』(2003年) 155
3. 3ヨハネ 1 : 4
4. “Text of Mrs. Bush’s Speech,” *Washington Post*, 1990年6月2日付, sec. C, 4

5. 1テモテ 5 : 4
6. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』241
7. *The Responsibility of Parents to Their Children* (パンフレット, 日付なし), 3
8. ジェローム・クラブカ・ジェローム, *The International Dictionary of Thoughts* (1969年), 782
9. 2ニーファイ 2 : 26
10. *Elbert Hubbard’s Scrap Book* (1923年), 227
11. “The Man of Christ,” *Ensign*, 1975年5月号, 101
12. アルマ 56 : 47
13. アルマ 56 : 48
14. 教義と聖約 68 : 25
15. チャールズ・ヘンリー・パークハースト, *Leaves of Gold* (1938年), 177
16. 3ニーファイ 20 : 25 - 26 ; オーソン・F・ホイットニー, *Conference Report*, 1929年4月, 110 - 111参照

ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 聖所とは危険や苦しみから守られる場所であることを家族に説明する。家族一人一人に自分の想像する聖所の絵を描いてもらう。聖所としてどのようなものかを描いたのか、どうしてそれが自分にとって聖所なのかを説明してもらう。「最大の願い」という項目の最初の段落を声に出して読む。どうすれば家庭を聖所とすることができるか話し合う。

2. このメッセージの最初の文を声に出して読む。その後、ファウスト副管長は親であることに伴う課題としてどのようなことを挙げているか話し合う。これらの課題に対処するためのアイデアを家族に話してもらう。これからの1か月間、ファウスト副管長のどの勧めを家族で実行できるだろうか。

3. 「教える責任」および「神に対する堅固な信仰」という項目を声に出してともに読み、ファウスト副管長が語った子供たちが学ぶべき事柄を列挙する。列挙した中から話し合う事柄を一つか二つ選ぶ。話し合う際には、聖文を幾つか含めるとよい。家庭で福音を教え、学ぶことで得られる祝福について証を述べる。



家族を強める

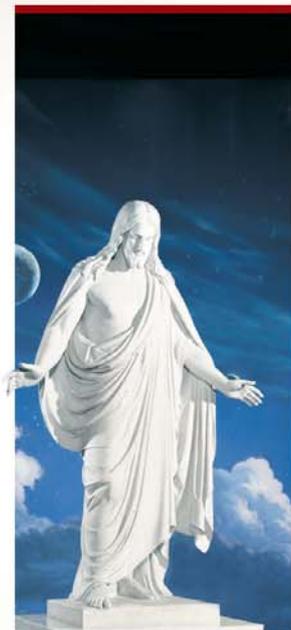
## 対等のパートナーとして

このシリーズは、「家族——世界への宣言」の個人的な学習と活用へのヒントを与えるものです。

「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。また母親には、子供を養育するという主要な責任があります。これらの神聖な責任において、父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」<sup>1</sup>

### 管理し、扶養し、守る

父親は家庭を管理しますが、管理とは、男性が妻や子供に権力を振るったり、不義な支配をしたりすることではありません。救い主は使徒たちに、異邦人の支配者は民に権力を振



るっているとお教えになりました。しかし「あなたがたの間ではそうであってはならない」と警告し、「かえて、あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない」と戒められました（マタイ 20：25 - 27 参照）。したがって管理とは、愛し、仕え、犠牲を払うことになります。使徒パウロはこう言いました。「夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。」（エペソ 5：25）エズラ・タフト・ベンソン大管長（1899 - 1994 年）は次のように述べています。「兄弟たちに、心の底から申し上げます。〔イエス・キリスト〕は、

わたしたちが家族を霊的に導く際に模範とするべき御方です。これは特に夫婦関係について言えることです。』<sup>2</sup>

主はこうおっしゃいました。「自分の家族を扶養する義務を負っている者には皆、扶養させなさい。そうすれば、その人は決して冠を失うことはない。」(教義と聖約 75:28) 現代の世の中では、家族を扶養する能力は、しばしば父親に十分な教育を受ける意欲と機会があるかどうかにかかっています。しかし、教育を受けてふさわしい職に就き、生活に必要なものを調達するとは、高い生活レベルを求めて膨大な時間を仕事につき込むことではありません。スペンサー・W・キンボール大管長(1895-1985年)は、生活必需品の域をはるかに超えたものを手に入れるために多大な時間を労働に費やしている父親がいると警告しました。その結果この世の財産が神となり、家族を愛と義によって管理する時間がほとんどなくなるのです。<sup>3</sup>

家族を守るという責任には、父親の当然の務めである住居や安全の確保以外にも、非常に多くの事柄が含まれます。ハワード・W・ハンター大管長(1907-1995年)はこう教えています。「義にかなった父親は、子供たちの社交活動、教育、霊的な活動や責任のために時間を取り、一緒にいて彼らを守ります。』<sup>4</sup> 父親は、テレビ番組や映画、書籍、つきあう友達を賢明に選べるよう教えることによって子供を守ることができます。

### 子供を養い育てる

1942年に、大管長会は次の声明を発表しました。「母親の務めは神聖な召しとなります。それは主の計画を実行するための聖なる務めです。すなわち自らをささげ、第一の位を保った霊たちの体と思いと精神を養い育て、第二の位を得られるよう導くことです。……母性は神性に近いものです。人間が行う最も高貴で聖なる務めです。その聖なる召しと業を尊ぶ母親は天使に次ぐ位置に置かれます。』<sup>5</sup>

サタンが用いる最も狡猾な欺きの一つは、家庭における妻や母親の仕事を卑しいものだと思わせることです。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老はこう述べています。「これは、……神の計画の根幹をねらった攻撃です。……わたしたちの神の計画から迷い出て、この世の道に行つてはなりません。そこでは母親であることは過小評価され、女



**夫**と妻は対等の  
パートナーとして  
親の責任を果たし、  
無私の精神で  
互いに助け合わなければ  
ならないのです。

性らしさは軽視され、妻や母親の天与の役割は顧みられないでいます。』<sup>6</sup>

預言者は、母親が全時間をささげて子供を養い育てることの大切さを強調してきました。しかし、家族の必要を満たすために働かざるを得ない母親について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「どうか、最善を尽くしてください。フルタイムで働いているのであれば、基本的な必要を満たすために仕事をし、単に高価な家や自動車、ぜいたくのために働くことのないよう望んでいます。』<sup>7</sup>

### 対等のパートナーとして互いに助け合う

母親の主要な責任は子供を養い育てることであり、父親には家族を管理し、必需品を提供し、家族を守る義務があります。しかし、これは別個に行うものではありません。夫と妻は対等のパートナーとして親の責任を果たし、無私の精神で互いに助け合わなければならないのです。

神の計画では、家庭で担う主要な責任が母親と父親で異なりますが、これは男性と女性の永遠の違いを映し出しています。『家族——世界への宣言』ではこう教えています。「性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。』<sup>8</sup> このように本質的な違いがあり、異なる責任を担っているからこそ、夫婦は歩み寄って一つとなり、長所と才能を持ち寄って互いに補い合い、永遠に続く家族関係を築くことができるのです。■

### 注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. 「イスラエルの父親たちへ」『聖徒の道』1988年1月号, 52参照
3. 「偽りの神々」『聖徒の道』1977年8月号, 349-352参照
4. 「義にかなう夫、父親」『聖徒の道』1995年1月号, 57
5. Conference Report, 1942年10月号, 12-13
6. 「偉大な幸福の計画を実践する」『聖徒の道』1997年1月号, 84参照
7. 「教会の女性」『聖徒の道』1997年1月号, 76参照
8. 『リアホナ』2004年10月号, 49





た。その原因は、なすべきでないことをしているからではなく、なすべきことをしていないからだという気がしました。

そこで、伝道部の霊性を高めるために、ゾーン大会を幾度となく開きました。どのように伝道するかの方法や手順を指導するのではなく、証会を開くことにしました。そして最後の大会で謙遜な長老の一人が証するのを聞いていて、問題の答えを見つけました。このおどおどした新任の宣教師の簡潔な証に、何か違うものを感じたのです。わずか1分にも満たない短い証だったにもかかわらず、彼の言葉から、わたしたちに欠けていたものが何だったかを悟りました。

ほかの宣教師たちの証は、次のようなものでした。『伝道に出られたことを感謝しています。たくさんのことを学びました。良い同僚を頂いて、彼からたくさんのことを学んでいます。両親に感謝しています。先週、ある経験をしました。戸別訪問をしていると……。』それから、宣教師は自分の経験を話した後、最後にこのように述べるのです。『伝道できることを感謝しています。わたしには福音の証があります。』そして、『イエス・キリストの御名によって、アーメン』と言って証を終えるのです。

しかし、この若い長老は違いました。必要以上に話を長引かせることなく、せき立てられるかのように、またおびえた様子で、簡潔にこう述べたのです。『わたしは神が生きておられることを証します。わたしはイエスがキリストであられることを証します。わたしは神の預言者が教会を導いていることを知っています。イエス・キリストの御名によって、アーメン。』

これこそ証でした。経験でもなく、感謝の表現でもなく、宣言であり、証言でした。

ほとんどの宣教師は、『わたしには証があります』と言いながら、それを宣言していませんでした。この若い宣教師は、非常に少ない言葉で、率直で基本的な証を述べました。だからこそ力強いのです。

こうしてようやく伝道部の抱えていた問題の本質が分かりました。わたしたちは経験を話し、感謝を伝え、証を持っていると認めながら、証をしていなかったのです。』<sup>2</sup>

大管長会は、簡潔で明瞭な証を述べる事が重要であると強調してきました。「断

食証会で証をしたいと思っている教会員がその機会を得ていないケースがあります。わたしたちはそのことを懸念しています。そこで監督会の皆さんに、救い主とその教え、回復について、簡潔で心のこもった証ができるようすべての人を助けていただきたいと思います。そうすれば、これまでよりも多くの人が証する機会を得られるでしょう。」<sup>3</sup>

### 証ではないものとは何か

ある原則を説明するのに、その原則の本質とは異なる点を挙げてみると、多くを学ぶことができます。わたしは証について次のようなことを学びました。

● それは勧告ではありません。断食証会で前に立ち、聴衆に勧告の言葉を述べる人、時には悔い改めを呼びかける人は、どんなに誠心誠意であったとしても、権威を誤って行使しているのであり、往々にして聞き手の感情を傷つけ、集会の御霊を遠ざけます。

● 経験談ではありません。ただし、経験を話すことで、信仰や確信を具体的に説明できることはあるでしょう。

● 感謝や愛を表現することでもありません。ただし、証を伝える際に、感謝や愛をふさわしい形で表現することはよく行われています。

● 公の場で罪を告白することではありません。

● 教義上のある点についての説教や話ではありません。しかし、聖文を引用してそれについて証することはあります。

● どのように知ったかを長々と説明するものではなく、何を知ったかを話すものです。

● 「わたしには証があります」と言うだけでは証とは言えません。このように言うことは不適切ではありませんが、その後、教義や真理、原則について自分が持っている証を続けるとよいでしょう。

### レッスンや話の中で述べる証

通常、レッスンや話の後はきちんとした証をして終えるべきです。それは、それまで語ったすべての事柄のクライマックスとなる部分です。専任宣教師は

重要な各原則を教えた後に短く簡明な証をし、そして最後に鍵となる原則に関してまとめの証をすることがよくあります。

クラスを教えたり、説教壇で話したりする場合、レッスンや話の中で証を交えすぎることがないように注意してほしいと思います。証が多すぎると、会員にとっては、御霊によって熱心に聞こうという気持ちが薄れます。求道者は戸惑うかもしれませんし、さらに悪くすると、証のことを法令集や裁判所で使われる言い回しか何かのように考えてしまうかもしれません。要するに、頻繁に証しすぎると、神聖なものがありふれたものにしてしまい、証の力を失わせてしまう恐れがあるのです。主はこのように忠告を与えておられます。「上から来るものは神聖であり、それについては注意して、御霊の促しによって語るようにしなければならない……。」(教義と聖約 63：64)

### 証の例

聖典には純粋な証の例が数多く見られます。アルマは、民を改心させるには純粋な証を述べるしかないということを知っていました(アルマ 4：19参照)。彼は、どのように知ったかを述べた後で(アルマ 5：45-46参照)、自分の知っていることについて純粋な証を述べたのです。

「わたしはあなたがたに言う。将来起こることについてこれからあなたがたに語ることは、何事もすべて真実であると、わたしは自分で知っている。わたしはあなたがたに言う。わたしはイエス・キリストが将来来られることを知っている。イエス・キリストは御子、すなわち御父の独り子で、恵みと憐れみと真理に満ちておられる。見よ、世の罪、まことにその御名を確固として信じるすべての人の罪を取り除くために来られるのは、この御方である。」(アルマ 5：48)

もう一つの純粋な証の例が、預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンが受けた、3つの栄光の階級に関する示現の記録に見られます。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。ま



**ブリガム・ヤングはこう語りました。「わたしが会った人は雄弁で(は)ありませんでした。「わたしは聖霊の力によってモルモン書が真実であること、ジョセフ・スミスが主の預言者であることを知っています」としか言えませんでした。わたしがその人に感じた聖霊の力はわたしの理解に光を与え、そして光と栄光と不死不滅がわたしの前に明らかにされました。」**

た、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、

彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。』(教義と聖約76：22-24)

高価な真珠に収められた「ジョセフ・スミスー歴史」は、『預言者ジョセフ・スミスの証』(アイテム番号32667 300)という伝道用のパンフレットとして発行されていますが、預言者はこの中で、簡潔で率直な言葉を用いてこう宣言しています。「わたしは示現を見た。わたしはそれを知っていた。神がそれを御存じであるのを、わたしは知っていた。わたしはそれを否定できず、またそうする勇気もなかった。少なくともわたしは、そのようにすれば自分が神に対して罪を犯し、罪の宣告を受けるということを知っていた。」(ジョセフ・スミスー歴史1：25)

バプテスマのヨハネは純粋な証を述べる際に、“bear record”という言葉(訳注——日本語の聖文では、「証する」と訳されている)を使っています。

「わたしヨハネは証する。わたしは御父の、恵みと真理に満ちておられる独り子の栄光としての、すなわち世に来て肉体に宿り、わたしたちの中に住まわれた真理の御霊の栄光としての〔救い主〕の栄光を見た。

わたしヨハネは証する。見よ、天が開かれ、聖霊が鳩の形を取って彼の<sup>くだ</sup>の上に降って、彼の上にとどまられた。また、天から声があつて言われた。『これはわたしの愛する子である。』

わたしヨハネは証する。彼は御父の完全な栄光を受けられた。」(教義と聖約93：11, 15-16)

聖典には、天の御父または御子が証しておられる部分があります。例を挙げると、ニーファイは天の父なる神がこのように宣言されるのを聞きました。「まことに、わたしの愛する者の言葉は真実であり、確かである。最後まで堪え忍ぶ者は救われる。」(2ニーファイ31：15)

救い主は預言者ジョセフ・スミスについて、



またモルモン書の翻訳について証されました。「彼はその書を、すなわちわたしが彼に命じた部分を翻訳した。あなたがたの主、あなたがたの神が生きているように確かに、その書は真実である。」(教義と聖約17：6)

救い主は御自身についてこう証しておられます。「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。」(教義と聖約110：4)

わたしは、純粋な証の持つ力に心からの感謝の念を抱いています。自分自身、聖典と末日の預言者が教えている正しい原則に添った証をしているかどうか、常に吟味し続けています。純粋な証を述べるときには、神聖な力が伴うことを証します。■

#### 注

1. Deseret News, 1854年2月9日付、『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』345参照。
2. Teach Ye Diligently, 改訂版(1991年), 323-324
3. 大管長会からの手紙, 2002年5月2日付; M・ラッセル・バラード「純粋な証」『リアホナ』2004年11月号, 40-43も参照

**教師は**  
**レッスンの**  
**最後に、**  
**きちんとした証を**  
**するべきです。**  
**それは、**  
**それまで語った**  
**すべての事柄の**  
**クライマックスとなる**  
**部分です。**

# ポリネシアの真珠

フランス領ポリネシアに住む  
末日聖徒たちの信仰は、  
この島々の特産品の真珠と同様に、  
幾層も重ねながら成長し、  
時とともに輝きと美しさを増しています。

リチャード・M・ロムニー  
教会機関誌

**真**珠は忍耐の産物です。幾層も重ねながら、時とともに輝きを増していきます。フランス領ポリネシアでは、回復された福音を信じる信仰も同じように増えています。この信仰が増し始めたのは、1844年、最初の宣教師が到着したときのことでした。以来世代を重ねながら、その信仰は聖徒たちの人生に希望と意味を与えてきました。現在では、末日聖徒の数は人口の8パーセントに及び、2万人の会員が79のユニットに集っています。教会員は、互いに助け合い、周囲の人の面倒を見ることで知られています。真珠と同じように、その輝きはあくまで控えめです。しかし、キリストからの光を反射するとき、ほんとうの意味で輝くのです。そのような聖徒たちの輝きを少し紹介しましょう。

## トゥブアイ島——始まりの地

トゥブアイ島の端にある道路から少し外れた場所で、ロニー・ハレバーと妻のサンドリンが小さな石の記念碑の周囲

を清掃しています。ここは、アディソン・プラット長老という宣教師が、末日聖徒の宣教師として初めてこの島を訪れたことを記念するために奉献された場所です。この島はタヒチ島の南450マイル(700キロ)の所に位置しています。アディソン・プラットは少年時代をアメリカ合衆国のニューハンプシャー州で過ごし、19歳のとき船乗りになりました。現在のハワイ諸島まで航海し、それから太平洋や大西洋、カリブ海、地中海といった海を渡り、その後、結婚してニューヨーク州に住みました。1838年に妻とともに教会に加入し、1841年には聖徒たちとともにイリノイ州ノーブーに集合しました。1843年5月に預言者ジョセフ・スミスによって、太平洋地域の伝道活動を始めるために召されました。1844年4月30日、アディソンは、ノア・ロジャース、ベンジャミン・グロアードという二人の長老とともに、トゥブアイ島に到着したのです。

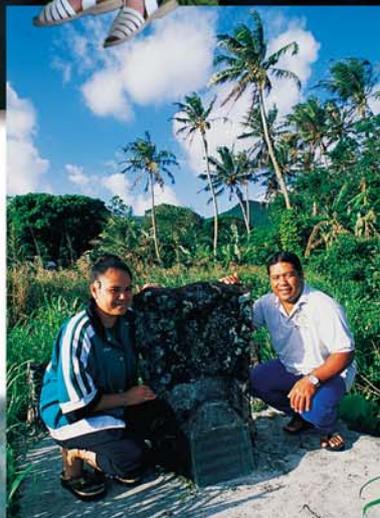
島の人々は、宣教師に一人でも島に残ってほしいと熱心に訴え、その結果、プラット長老が残ることになりました。長老はそこでタヒチ語を学び始め、伝道を開始したのです。最初の改宗者は、長老の通訳者として働いていたもう一人のアメリカ人でした。その島に7人いた船乗りのうちの6人がバプテスマと確認の儀式を受け、教会員になりました。そして1844年7月22日、末日聖徒の開拓者がユタに到着する3年前に、ポリネシア人最初の改宗者がバプテスマを受けたのです。1845年2月までには、トゥブアイ島の200人の島民のうち60人が教会に加入しました。このようにして伝道が始まり、ほかの島々に渡ったロジャース長老やグロアード長老の働きによって、現在のフランス領ポリネシア全域に教会が広がって



フランス領ポリネシアの  
末日聖徒は、  
1844年以降続く  
伝統の上に立っています。  
上——手作りの工芸品を  
見せるタカロア島の  
テラ・テマハガ。  
ライアテア島に住む  
ヘアナ・テリーパイア、  
ギャリー・モウ・サム、  
ファリ・レブロネック(上)  
とテイホタータ家族(左)  
は「福音のおかげで  
強さを保っています」と  
口をそろえる。  
下——トゥブアイ島で、  
アディソン・プラット長老  
の記念碑を守る  
サンドリン・ハレバーと  
ロニー・  
ハレバー。

いったのでした。

現在トゥブアイ島では、ロニー・ハレバーがオース  
トラル・トゥブアイ地方部の部長を務めています。  
この地方部には、5つの支部に593人の会員がいま  
す。かなりの数の教会員がハレバー部長の親戚で





れました。若いころは荒れた生活を送っていたのですが、トゥブアイ島からマルキーズ諸島に引っ越して来たある教師のおかげで、回復された福

す。ハレバー部長は、会員から多くを学んでいると言います。「ここには長い歴史と大切な受け継ぎがあります。教会と家族に対する深い愛という受け継ぎです。」

「トゥブアイの島民の大半は、物質的には多くのものを持っているわけではありません。しかし、幸福になるために必要なものはすべてそろっているのです。」そう語るの、マフ支部の支部長を務めるルシアン・ホフマンです。「ここでは、木には果物が実っていますし、足もとには野菜があります。好きなきに漁に出ることもできます。病気や困っている人が助けを求めれば、だれもがいつでも喜んで助けています。」

ハレバー地方部長はこう語っています。「わたしたち夫婦は、両親のそばにいたいと思って、トゥブアイ島に住むことにしました。家族で一緒に過ごそうと思ったら、こんなすばらしい場所はありません。」実際、弟が隣に住んでいて、もう一人の弟はその隣の家に住んでいます。父親は地方部の副部長として奉仕しています。トゥブアイ島にはハレバー部長の一族が数多くいるため、多くの人が混乱を避けるため、ハレバー部長のことをロニー部長と呼んでいます。

トゥブアイ島には3つの集会所があります。その一つ、マフの礼拝堂の前で、サンドリンがもう一つの記念碑を指差しています。これもアディソン・プラットをたたえる記念碑です。「160年たった今でも教会がまだここで力強く続いていることを知ったら、きっとプラット長老も喜ぶと思うわ」とサンドリンが言います。しかし、教会はここにただ存続しているだけでなく、今なお発展し続けているのです。

最近の改宗者の一人にヨハン・ボンノがいます。ヨハンはフランス領ポリネシアの最北端にあるマルキーズ諸島で生ま

音に興味を持つようになりました。「マイミチが真の教会について教えてくれたのです。モルモン書のことも教えてくれました。わたしは少しずつ悪習を捨て始めたんです。彼女はわたしを教会に誘ってくれました。おかげで少しずつ良いことが身に付き始めました。」

二人は結婚し、トゥブアイ島に引っ越しました。ヨハンは次のように語ります。「義父が宣教師のオープンハウスに招待してくれました。そこでわたしは心を動かされ、また平安を感じました。真理を知りたいという願いが込み上げ、ジョセフ・スミスについてまじめに祈りました。そして、主がジョセフ・スミスを通じて真の教会を回復されたことが理解できるようになったのです。」間もなくヨハンはバプテスマと確認の儀式を受けました。

今では、ヨハンとマイミチは、タヒチ島にあるパペーテ神殿で結び固めを受けるため、準備の日々を過ごしています。「生活に神殿の光を取り入れるということは、15ワットの電球を、まぶしい太陽の光と交換するようなものです」と夫のヨハンは言っています。ヨハンにとって、回復された福音を学ぶためには、信仰という層を一つ一つ積み重ねることが必要でした。同じように、結婚し、トゥブアイ島に引っ越し、教会に加入するときにも信仰が必要でした。今度は神殿に参入するという経験を通じて、成長し続ける真珠に新たな層を重ねることになるでしょう。

### ライアテア島——平安の港

スペンサー・モロナイ・テウイアウが伝道の召しを受けたのは23歳のときでした。その日、彼の顔からほほえみが消えることはありませんでした。歯科治療が完了するまで、4年間も待ち続けなければならなかったのですから。ライアテア島出身のこの青年が召しを受けたのは、ちょうど彼の誕生日のことでした。届いた手紙を声に出して読んだ日のことを、スペンサーはよく覚えています。「回復された福音を宣べ伝える者」「真理の力強い擁護者および使者」「救い主を代表する者」といった言葉を読みながら、こう



上——タウミハウ家族はタヒチ島で教会に加入した。

下——宝石細工師のヨハン・ボンノ（隣は妻のマイミチ）は、トゥブアイ島で教会に加入した。

考えたのです。「自分にはこれだけ弱点があるのだから、もっと主を信頼していかないといけないな。」

しかし、モロナイはこれまでずっと主に頼ってきたのです。モロナイは教会員として生まれ育ちました。6人兄弟のうち、専任宣教師として伝道に出るのは3人目です。昔を思い出しながらこう言います。「幼いころからずっと伝道に出るのが夢でした。」セミナーに通った4年間で宣教師が使う聖句も暗唱したり、帰還宣教師たちが伝道について証するのを聞いた<sup>あかし</sup>りしたのも、良い思い出です。しかし同時に、歯の検査や矯正に通い、何年も器具を付けていたことも覚えています。「あきらめようと思ったことも何度もありました。」しかし、家族の励ましを受け、忍耐し、希望を保ち続けました。現在、モロナイはタヒチ・パペーテ伝道部で忠実に奉仕しています。

モロナイや同世代の若い末日聖徒にとって、ライアテア島の教会は強さを与えてくれる港のような存在です。アベラワードのギャリー・モウ・サム(16歳)は、第3世代の末日聖徒ですが、次のように説明しています。「ここでは、わたしたちは外の世界とは違った存在なのです。友人や両親との関係にも問題はなりません。預言者の教えにも恵まれて、家族と親しい関係を築くようにとか、一緒に聖文を読んだり、家

庭の夕べを開いたりするようにと教えられています。教会が今でも進歩を続けていることが分かっているので、主の偉大な業に少しでもかかわってみたいと願っています。」

ギャリーの友人であるファリ・レプロネック(14歳)も同じ意見です。ファリは、世の危険から守ってくれるものが二つあると言っています。それはセミナーと祈りです。「セミナーに行く<sup>か</sup>と毎朝霊的に高められるんです。そして、信仰をもって祈れば、どんなときでも力を得ることができます。」フランス領ポリネシアでは、セミナーもインスティテュートも活発に行われています。2004-2005年度には、セミナーに740人、インスティテュートに524人の生徒が登録しています。

強さのもう一つの源に、教会員が福音に興味を持つ人々に示している模範があります。そのような模範があったからこそ、テイホタータ家族(夫エイドリアン、妻グリータと子供たち)は教会に入ることができたのです。この家族は長い間宗教とは無縁でしたが「変わる必要があると思っていました」とテイホタータ姉妹は語ります。

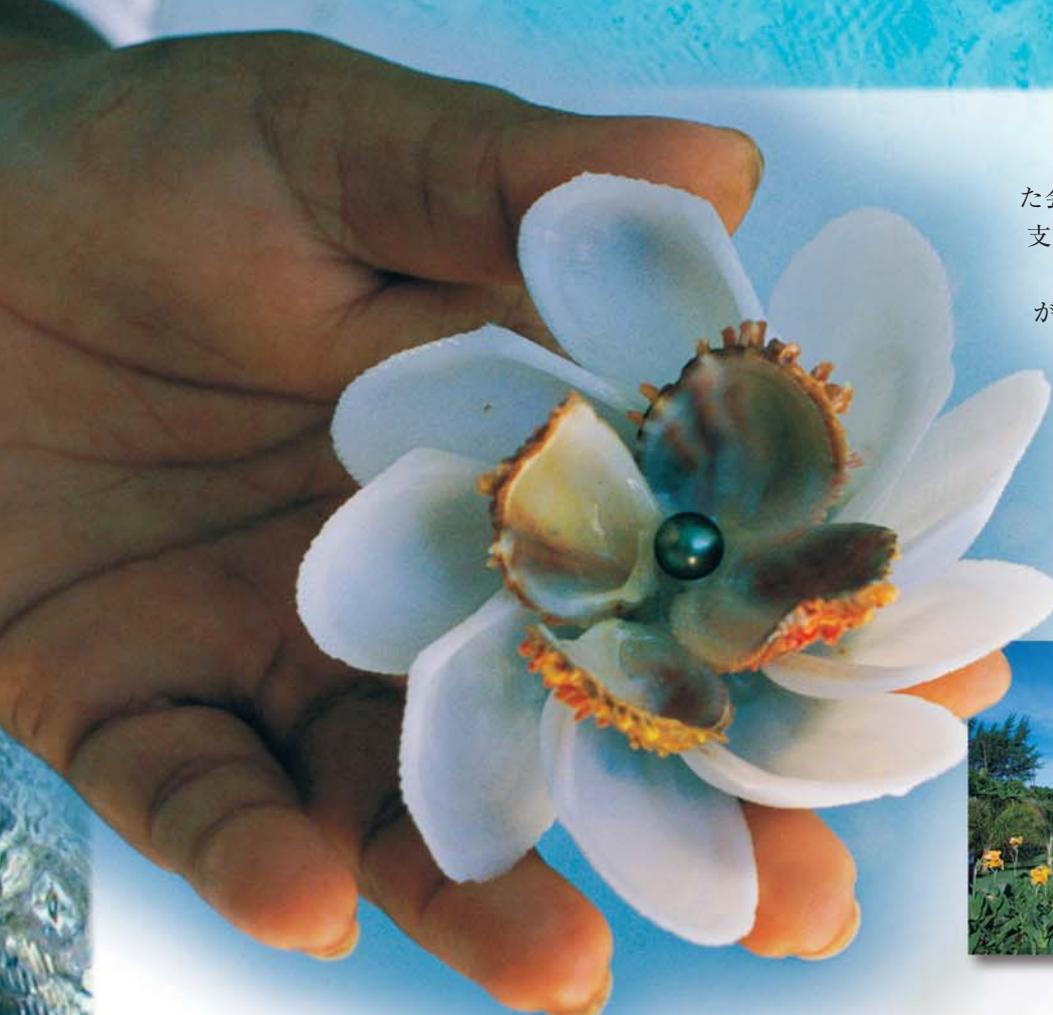


**上——現在タヒチ島で  
ステーキ祝福師を務める  
イオア・ブラザースは、  
1968年にモーレア島で  
バプテスマと**

**確認の儀式を受けた。  
彼も大勢の人とともに、  
教会が近隣の島々に  
善い影響を与える様子  
を見てきた。**

**下——タカロア島の  
未来になう子供たち  
ラニデア・テイホアリー、  
ベヒナ・テイホアリー、  
バイミチ・ナイジランド。**





た会員が引き続き示してくれる模範からも支えを受けています。」

ステーキセンターには、もう一人の会員が来ていました。1956年にバプテスマを受けたハリエツ・ブローディアン・テローアテア兄弟です。「当時ライアテア島では、教会はあまり知られていませんでした。教会員もさほど多くなく、集会も小さな家で開かれていました。礼拝に使う部屋が1部屋と、宣教師用の部屋が1部屋しかないよ



うな家でした。それでも少しずつ教会は大きくなりました。」まるで真珠の成長と同じように。

**右——工芸品作りが盛んなこの地域では、神殿は最も美しい宝として**

**あがめられています。**

**次ページ、上——**

**タヒチ島で、**

**神殿の影響力を**

**感じている祝福師の**

**ティアティア・テイオと**

**妻のイミハー。**

**ジェッセ・ペレータイと**

**ジャン・フィリップ・**

**マグレビーといった**

**執事たちも神殿から**

**力を受けています。**

**下——ライアテア島の**

**スペンサー・モロナイ・**

**テウアウの頭上で**

**はためくフランス領**

**ポリネシアの国旗。**

「そこで、どうぞ導いてくださいと主にお願いしました。」それから幾日もしないうちに、隣人からウツロアワードのオープンハウスに招待されたのです。「次の日曜にもまた教会に来ようと思いました。」テイホタータ兄弟は当時を思い出してこのように語ります。「教会で、みんなが何かしら役割を果たしているのが印象的でした。教えたり、クラスに出席したり、子供の面倒を見たりと、いろいろでした。ほんとうに互いに愛し合っているようでした。」

その日はちょうど断食日曜日でした。「証会が始まると、それまで感じたことのない、平安な気持ちになりました。聖霊です。『これこそ求めていたものだわ』とささやき合いました。」テイホタータ姉妹はそう語ります。家族は宣教師に会い、学び続けました。結果的には、いちばん上の息子が教会に入りませんでした。テイホタータ兄弟姉妹とほかの5人の子供がバプテスマと確認の儀式を受け、教会員になりました。1998年のことでした。以来、戒めを守り、聖文を研究し、神殿に参入しているおかげで、「証が強められています。また、教え、助けてくれ

### タヒチ島——強さの中心

教会がフランス領ポリネシアにどれほど浸透しているか調べるために、タヒチ島のバペーテにある広報評議会を訪ねてみました。最近の評議会で、重要な出来事についての思い出話に花が咲いたそうです。

● フランス領ポリネシアの教会では、2004年10月に教会設立160周年を祝い、祝賀行事として次のことを行いました。(1) 教会に関する展示会、(2) スタジアムでの一大祝祭行事——ダンス、歌、コーラス、マルチメディアを駆使した発表など。(3) スポーツデーの開催——竹を使ってバナナを運ぶといった伝統的な競技も行われました。(4) 教会指導者や政府の指導者の話を聞くファイヤサイド——500人編成の聖歌隊の演奏が花を添えました。多くの活動が新聞に紹介され、テレビで全国に放送されました。

● 教会役員が政府首脳や末日聖徒の現役の国会議員を数回表敬訪問しました。政府は、教会の貢献、特に家族の大切さを教えていることについて謝意を表しました。

● 2003年7月にフランスのジャック・シラク大統領がフランス領ポリネシアを訪問したとき、3万人の観衆の前で、400人編成の末日聖徒の聖歌隊が歌声を披露しました。この演奏はフランス領ポリネシアだけでなく、フランス本土にもテレビ中継されました。聖歌隊の歌う「主は生けりと知る」(『賛美歌』75番)や「神よ、また逢うまで」(『賛美歌』85番)は、多くの人の涙を誘いました。

● タヒチ・パペーテ神殿が、2003年10月に奉獻20周年を祝いました。これを記念して、タヒチ・パエアステーキの会員たちは、エンダウメントを受けている会員たちが少なくとも1回は儀式を受けることができるよう、朝7時から夜9時まで、神殿の業を行いました。

「タヒチでは、教会は成長して大人になりました。」教会の全国広報部長を務めるマママ・タラチはそう語ります。「教会は、善を実践する一大勢力として、フランス領ポリネシア全土に知られています。」タヒチ島には、各地に美しい集会所があり、忠実な末日聖徒が多数集まっています。さらに何にも増して輝く宝石のように、神殿が首都において有名なランドマークとなっています。

神殿の光は、多くの人の生活にさし込んでいます。「この教会の会員になるまで、死後の世界のことについては、まったく無知でした。」そう言うのは、マルガリーテ・テリーノホプアです。マルガリーテが家族と一緒に教会について学び始めたのは、祈ってくれた家族がいたからでした。アーネスト・モントローズ(現在、タヒチ・ファアアステーキの第一副会長として奉仕している)は当時、ハイリワードの監督でした。あるときワードの会員は、求道者が見つかるように祈ってくださいと、宣教師から頼まれました。そのとき「わたしの家族が最初にするべきだ」と判断したモントローズ監督は、靈感を受けて、職場の同僚ダニエルソン・テリーノホプアに、家族と一緒に家庭の夕べに来るよう招きました。宣教師たちも招待しました。

「わたしたちも同じころ、真理のもとに導かれたいと祈っていました。」ダニエルソンは当時のことを思い出しながら、そう語ります。ちなみに、ダニエルソンは現在、高等評議員です。「家庭の夕べが終わったときに、わたしたちは『もっと知りたい、今すぐに』と言いました。」モントローズ監督は、翌日の晩、直ちに次の集会を開くことにしました。そしてそのような集会が毎晩続いたのです。数週間のうちにテリーノホプア家族はバプテスマと確認の儀式を受け、教会員になりました。そして1年後には神殿で結び固めを受けたの



です。マルガリーテの言葉です。「今では疑問に対する答えを持っています。神殿では大きな平安と喜びを感じます。」

ハイリワードのチャンテル・ハウアタも、神殿に参入する喜びを知っています。良性の脳腫瘍が原因でチャンテルの目が見えなくなったのは6年前のことでした。しかし、神殿の中の霊的なことがもっとよく理解できるようになったと、チャンテルは言います。「神殿は明瞭

な場所です。神殿では永遠について学びます。それはわたしたちを現世の生活を越えた高さに引き上げてくれます。」

ペペ・マリテラギ家族も、神殿の祝福を味わっています。2003年10月にパエアにあるペペの家に子供や孫が集まったとき、ペペの妻であり、皆の母や祖母であるテパフのことが話題になりました。「母は7か月前に亡くなりました。でも、わたしたちの心はいつも母に向いています。」そう語るののはテパフの息子ルシアンです。

「このようなことを乗り越えられるのも、福音のおかげです。神殿の祝福のおかげで、永遠の家族でいられることが理解できるのです。」もう一人の息子、ジャン・マリーがそう語ります。

福音が数世代にまたがって受け入れられているということも、教会が成熟し、強くなっていることを示すしるしです。タバラワードのモロナイ・アルバレス監督と妻のジャンニタは、モロナイの祖父の代からの受け継ぎについてよく話題にします。モロナイとジャンニタは、6人の子供全員のセミナーとインスティテュートの卒業証書や、6人がそれぞれ専任宣教師として奉仕しているときの写真を飾っています。子供たちが神殿で結婚したことや、孫たちが教会の教えに添って育てられていることについて話してくれました。「わたしたちは、話をするのも、聖文を勉強するのも、祈るのも一緒でした。そうやって証を伝えたのです。今、子供も孫に同じことをしています。」アルバレス監督はそう言いました。

タヒチ・パエアステーキ、マタティアワード





## 島々に点在する真珠養殖場で働く タカロア島のタヒア・ブラウン。

のジャレド・ペルツァー(21歳)と話してみてください。ジャレドは今、フィリピンに伝道に出る準備をしているところです。また、兄のロレンゾ(30歳)にも会ってみてください。ロレンゾも何年か前にフランス領ポリネシアで専任宣教師として奉仕しました。また、二人の弟、ナリー(18歳)とハイラム(14歳)にも会ってみてください。専任宣教師として奉仕に出る計画を立てています。ジャレドの言葉を聞いてみましょう。「これまで我が家には伝道に出るという伝統はありませんでした。でも、ロレンゾが出てからは、わたしも出たいと思うようになりました。今は兄とわたしで、弟たちに伝道に出るよう励ましているところです。」まさに層を重ねながら、真珠は成長を続けているのです。

### タカロア島——受け継ぎの家

もしタカロア島に住んだなら、真珠を身近に感じるでしょう。島民の多くが真珠で生計を立てています。ある人は、真珠を生み出すカキを養殖します。また、貝殻を洗う人や、カキをロープに縛り付ける人、真珠の核を入れる人、海中でカキをつるす人、真珠を収穫する人、装飾品や土産物を作る人と、様々です。

「わたしたちは、天の御父から頂いたものを手に取り、その中で眠っている『美しいもの』を引き出す仕事をしているのです。」島に点在する真珠養殖場の一つで働くタヒア・ブラウンはそう言います。タヒアとマリー・テイホアリーは、二人ともかつて支部の扶助協会の会長を務めたことがあり、末日聖徒が作ったネックレスやテーブル飾りなどの工芸品を陳列するのが大好きです。ブラウン姉妹はこう語ります。「工芸は母から習いました。この島の姉妹の大半は、熟練の技が必要な工芸品をよく作ります。生活のためでも時間を生かすためでもあるけれど、美しいものを創造するためでもあるのです。」

この島で作られる美しいものとは、真珠や貝だけではありません。テラ・テマハガやほかの姉妹たちは、植物のつるを編んで、美しいうちわや帽子、かごを作っています。一方、ティパバ・マホトゥやほかの姉妹たちは、布と糸を使って、鮮やかな色のキルトやクッションを縫い上げています。言い伝えによれば、キルト作りを最初に教えたのは、アディソン・ブ

ラットの妻のルイザだったということです。ルイザが島に渡って来たのは、1850年のことでした。

タカロア島の人々が名工ぞろいだということを示すものがもう一つあります。それは島で最も高い建物、美しい白亜の教会です(1891年に建築を開始しました)。この建物には驚くべき歴史があります。フランス領ポリネシアと合衆国の政治問題が悪化したために、1852年にポリネシア

諸島で働いていた宣教師に引き揚げ命令が出ました。宣教師が再び戻って来たのは1892年のことでしたが、そのときタカロア島で忠実に残っていた教会員は、100人くらいでした。そしてこの100人の末日聖徒が、一緒に礼拝する場所を作ろうとして、大きな礼拝堂を建築し始めていたのです。1か月もしないうちに、宣教師たちは33人にバプテスマを施し、教会は再び成長を始めたのです。

「今ではその礼拝堂が村を見守っています。ちょうど教会がわたしたちの生活を見守っているようなものです。」そう説明するのは、82歳のマホトゥ姉妹です。彼女の末日聖徒のルーツは、曾祖父<sup>そうふ</sup>父母<sup>ふぼ</sup>までさかのぼります。「この礼拝堂を見ていると、先祖が残してくれた受け継ぎを思い出します。わたしたちも、先祖たちのように、忠実であることができるという気持ちがいってきます。」

礼拝堂の増築部分にある家族歴史センターでは、所長のスザンヌ・ピマティが先祖に敬意を示すために働いています。定期的にファイヤサイドを計画し、参加を呼びかけるために、島中の人に何時間も電話をかけ続けています。「皆に先祖の探求をしてほしいと心から願っています。」エリヤの霊はタカロア島ではひととき強く感じられます。ピマティ姉妹は、コンピューターの助けを借りて、多くの名前を神殿に送ろうと計画しています。

「タカロア島の人口の90パーセントが末日聖徒だったこともありますよ。」トゥアモトゥ・タカロア地方部の部長を務めるシアリー・テイホアリーは言います。1950年代までは人口は減少していました。しかし1960年代になると、真珠産業のおかげで、人々は島に戻って来ました。現在はタカロア島に支部が二つあります。その二つを合わせた会員数は380人で、島民全体の人口は1,000人です。近隣の島々にはさらに450人の教会員がいて、4つの支部があります。

テイホアリー地方部長の話です。「今でも我々の最大のチャレンジは、島を離れる人、特に若い人たちが大勢離れて行くことです。」青少年の多くは島を出ると全寮制の学校に通いますが、島に残る青少年にとっては、セミナーやインスティテュートが教育の中心となります。「セミナーに出席していると、福音のことを忘れずにいられます。」

神殿に参入することも同じです。テイホアリー部長はこう言います。「毎年、神殿で儀式を受けるために団体旅行を計画します。青少年は死者のためのバプテスマを受けます。青少年にとっては大きな励みになります。それはただ旅行に行くために貯金の目標を達成するだけではないのです。青少年は、もし神殿に行きたいのなら、それにふさわしい生活をしなければならないことをよく知っています。そのことが強い信仰を維持する助けとなるのです。」

テイホアリー地方部長は、教会の召しのため、時にはほかの島を訪問しなければならないこともあります。家族ともども大きな祝福を受けていると言っています。「帰宅すると、まず妻のマリーと娘二人に、教会員の信仰と証について話します。そんなときいつも家族の霊性が高まり、御霊がともにあることを実感するのです。」妻のマリーもうなずきながらこう言います。「教会では学ぶことがたくさんあります。そして祝福も数多く受けられます。行うべき楽しい

務めもありますし、それを実行すれば教会も発展します。」

タカロア島に夕暮れが訪れようとしています。太陽も沈み始めました。白亜の礼拝堂に集まる聖徒たちの影も長くなっています。10代の若者たちはセミナーで学ぶために、ピマティ姉妹は家族歴史の作業をするために、テイホアリー地方部長は二人の支部長と会合を持つために、礼拝堂にやって来ました。たそがれ時の柔らかな光は、まるで真珠の輝きのようです。■



エディー・タマのバプテスマの準備をするベティ・タマ(タヒチ島)。



タカロア島の礼拝堂(左)。この礼拝堂は「村を見守っている」とティババ・マホトゥは言う(上)。教会指導者のピエール・トゥマラエ、ジェームズ・L・ブラウン、



シアリー・テイホアリーが礼拝堂に集まる(右)。家族歴史センターの責任者スザンヌ・ピマティ(下)。

# 質疑応答

「家庭の夕べ、家族の祈り、そして家族の聖文研究をするよう  
家族を助け励ますには、どうしたらよいでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

**家**族の祈り、家庭の夕べ、聖文研究を  
したいと思うのは、正しいことです。  
こうしたことで家族の信仰が築かれ、  
心が通い、仲良くなって、しかも楽しむことが  
できます。

家族で福音を研究し祈ることは、ほかに比べるものがないほど大切なことです。にもかかわらず、たとえ家族全員が活発な教会員でも、実行するのはなかなか難しいかもしれません。家族に働きかけるには、模範を示すことです。家族全員が参加しないのであれば、祈りや聖文の研究、家庭の夕べを、必要なら独りか、きょうだいとともに行います。戒めを守ろうとするあなたの模範が、家族を励ますことになるのです。

家族があなたと一緒に家庭の夕べに参加するようになったら、皆が楽しめるようにしましょう。最初はゲームをしたり、教会の映画を見たりしてもよいでしょう。家族が楽しめるような活動やおやつを準備しましょう。レッスンでは、家族が福音を生活にどう当てはめることができるかを教えます。やがて家族も自分でレッスンをしたくなるかもしれません。手助けできることを伝えておきましょう。

個人の祈りと  
聖文の研究をすることで、  
模範を示しましょう。

家族に  
参加するよう働きかけ、  
家庭の夕べを  
家族が楽しめるものに  
しましょう。

敬虔になり、  
愛を示すことで、  
家族が  
御霊を感じられるように  
しましょう。

家族に寛容になり、  
努力を続けてください。  
家族の祈りと聖文の研究、  
家庭の夕べから  
得られる祝福は、  
それだけの努力をする  
価値があります。

両親が教会員なら、こうした活動をしたいと思っていることでしょう。ただし手伝いが必要なだけかもしれません。レッスンの準備を申し出てみてください。きょうだいに積極的に参加するよう働きかけましょう。また、このような活動をしようという両親の呼びかけには、すぐに応じてください。両親が教会員ではない場合、恐らく週に1度の夜を家族で過ごすことには賛成してくれるでしょう。そのような日を1、2回計画し、家庭の夕べが家族にとっていかに良いものとなるか、両親が分かるようにしましょう。

最も大切なことですが、祈りや聖文の研究、家庭の夕べなどを行っている間、主の御霊を招いてください。それには、敬虔にし、証を述べ、福音や家族に対する愛と感謝の気持ちを伝えればよいのです。家族が主の御霊に感動すれば、このような活動を続けたいと思うようになるでしょう。

時には家族に対してがっかりしたりいらいらしたりすることがあるかもしれませんが、寛容になりましょう。腹を立てることは、これらの活動が目的としていることとは正反対の感情です。その代わりに、最善を尽くして家族に働きかけてください。例えば、家族に呼びかけたり、



家族のために<sup>だんじき</sup>断食して祈ったり、また楽しく、霊的な家庭の夕べを計画したりするのは。そして、家族にどうするか選ばせてください。辛抱強く、愛をもって模範を示せば、家族はこれらの活動を一緒にしてくれるようになるでしょう。

一人でこのような活動を行ったとしても、あるいはきょうだいや家族全員で行ったとしても、あなたはその努力に対する祝福を受けるでしょう。家族の祈り、聖文の研究、家庭の夕べは、家族を強め、あなたを主に近づけてくれるでしょう。

## 読者からの提案

家族で聖文を研究し祈る時間になると、わたしはきょうだいと両親に「あと5分で聖文と祈りの時間だよ」と伝えます。そうすれば家族はしていることを片付ける余裕ができます。家庭の夕べでは、順番にレッスンをします。あなたもこの方法を両親に提案してスケジュール表を作り、レッスンを教える人が前もって思い出せるようにしてはどうでしょうか。

カリフォルニア州モレノバレーステーク  
ヒドンスプリングスワード  
コートニー・モス、15歳



祈り、愛、信仰が<sup>かぎ</sup>鍵です。そうして、時がたてば、家族の一致を保とうというあなたの努力と、家族を永遠のものにしたいという望みに、家族は心を向けてくれるようになるでしょう。

ポルトガル・リスボンステーク  
リスボア第5ワード  
ディアナ・マルティンズ、18歳

家族が家庭の夕べを楽しみにできるよう、姉と二人で家族に手作りの招待状を渡し、いっどこでレッスンをするか話します。その後、[www.lds.org](http://www.lds.org)を見て、レッ

スンを計画します。姉と寸劇をし、歌を歌ったこと  
もあります。時にはレッスンの終わりに出せるよう、  
おやつを作ることもあります。

アイダホ州

アイダホフォールズ・テラーマウンテンステーキ  
ウッドハイブンワード

オータム・リース, 13歳



皆が家庭の夕べや祈り、聖文の研究  
をしようという気になるよう、わた  
したちにできる大切なことがありま  
す。それは模範になることです。わ  
たしたちが自分の役割を果たせば、

キリストの御霊が家庭に注がれ、とどまるようにな  
るでしょう。

ブラジル・グアルジャステーキ、グアルジャワード  
エリカ・パトリシア・ゴメス・ダ・シルバ, 15歳



わたしの家族は、家庭の夕べがなか  
なか開けなくて苦労しました。わた  
しは前々から家庭の夕べが重要だ  
ということを知っていたので、全員  
が楽しめることをしようと決め、家

族に参加するよう呼びかけました。このようなさ  
さやかな行動を起こしたことをきっかけに、毎週  
月曜日によく計画された家庭の夕べができるよう  
になりました。家庭の夕べのおかげで、わたしたち  
家族は大いに強められました。

オンタリオ州サドバリーステーキ

ブレイスブリッジワード

アシュリー・アトキンソン, 17歳



家族のために祈ることで、皆が靈感  
を受け、家族の祈りや聖文学習、家  
庭の夕べができるようになります。  
熱心に聖文を読んで祈ることで、家  
族の中で模範となり、家族を感化で

きるようにしたいと思います。

サモア・ベサガステーキ、ベサガ第3ワード

ロトムア・レアライサラノア, 16歳



わたしは両親に、家庭の夕べでこれ  
からすることを尋ねることで、家族  
にやる気を起こさせています。楽し  
く独創的で、家族全員が楽しめるよ  
うなアイデアを提案するようにして

います。家庭の夕べのレッスンをしようと申し出



## 「月」 曜日の夜は、 教会全体で、 家庭の夕べの

時間として

指定されています。

会員の皆さんが

この時間を、

家族のきずなを強め、

家庭で福音を

教えるために

用いてくださるよう

お勧めします。

わたしたち大管長会は

今年の初め、

……親である皆さんと

子供たちに、

家族の祈り、家庭の夕べ、

福音の研究と指導、

そして健全な家族活動を

最優先するようにと

お勧めしました。」

大管長会

(大管長ゴードン・B・ヒンクレー

「家庭の夕べ」

『リアホナ』2003年3月号、

4参照)

たりもします。また、特別なおやつを用意すると、  
家族が集まりやすくなります。家族が嫌がる家庭  
の夕べではなく、毎週参加したいと思うような家  
庭の夕べにしましょう。

ソルトレーク・ホラデー南ステーキ

ホラデー第4ワード

ジャレット・リーバー, 15歳



「個人の祈り」「家族の祈り」「毎日  
の聖文学習」などと書いた表を作り  
ました。それぞれの活動ができたら、  
その表にシールをはり、いちば  
ん多くシールをはれた人がごほう

びをもらうのです。

メキシコ・モンテレー・リベルタッドステーキ

ペドレガルワード

フランシスコ・ジャビエル・ドミンゲス・ルビアノ・

フズ, 15歳

主の御霊を家庭に招くようにすることで、家族のや  
る気を引き出すことが大切です。仲良く暮らせる  
よう祈り、聖文を研究し、穏やかな口調で互いに話  
してください。家族の中で永遠の幸福を得られる  
よう、主の助けを願い求めましょう。

タヒチ・ラロマタイステーキ、ヒブ支部

バネッサ・T・テウプーラウトア, 18歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたもの  
であり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## あなたの意見を聞かせてください

青少年の読者の皆さんへ——下記の質問に対する  
意見を、氏名、生年月日、住所、ワードおよびス  
テーク(または支部および地方部)を明記のうえ、  
写真を添えて、2005年11月15日必着で下記  
まで郵送か電子メールでお送りください

あて先——Questions & Answers 11/05

50 E. North Temple St. Rm. 2420

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メールアドレス——cur-liahona-imag

@ldschurch.org

## 質問

「伝道に出るべきなのは分かっていますが、教会  
が真実かどうか分からないので、まるで自分が偽  
善者のような気がします。どうしたらいいでしょ  
うか。」 ■

# 永遠の家族に関する知識を 喜びとする



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証<sup>あかし</sup>を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うよう勧めてください。

**預言者ジョセフ・スミス**——「宇宙の偉大なる御父は、親の愛情と思ひやりをもって全人類を見守っておられます。御父はすべての人を子として見ておられるのです。」(History of the Church, 第4巻, 595)

**家族についての神の計画はどのようなものでしょうか。**

**大管長会ならびに十二使徒定員会**——「神の幸福の計画は、家族関係が墓を超えて続くことを可能にしました。聖なる神殿において得られる神聖な儀式と聖約は、わたしたちが個人として神のみもとに帰り、また家族として永遠に一つとなることを可能にします。」(『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号, 49)

**大管長 ゴードン・B・ヒンクレ**——「神殿の業は、わたしたちが属する神の永遠の家族と地上の家族にかかわる事柄であり、結婚の聖約と家族関係の神聖さや永続性にかかわる事柄です。……全人類は天の御父の子供であり、御父の家族に属する兄弟姉妹[な]のです。」(『なぜ神殿を』『聖徒の道』1992年6月号, 4参照)

**教義と聖約 110:14-15**——「『見よ、マラキの口を通して語られた時がまさに来た。』マラキとは、主の大いなる恐るべき日が来る前に彼[エリヤ]が遣わされ、先祖の心を子孫に、子孫の心を先祖に向けさせ……る、と証した人である。』」

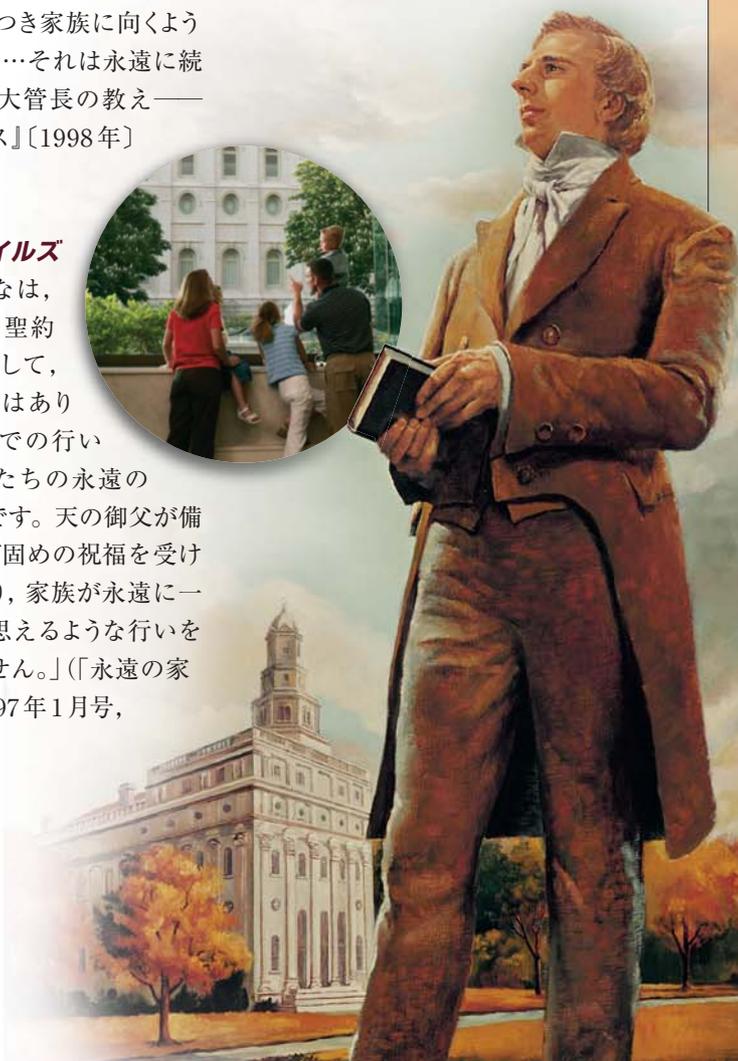
**永遠の家族の祝福を得るにはどうすればよいでしょうか。**

**大管長 ジョセフ・F・スミス (1838-1918年)**——「家族のつながりは、この世だけの一時的なものではありません。……わたしたちの愛情や望みは生まれつき家族に向くようにできています。……それは永遠に続くのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』[1998年] 385参照)

**十二使徒定員会  
ロバート・D・ヘイルズ**

——「永遠のきずなは、神殿で結び固めの聖約を交わした結果として、自然に生じるものではありません。この生涯での行いの結果が、わたしたちの永遠の行く末を決めるのです。天の御父が備えてくださった結び固めの祝福を受けるには、戒めを守り、家族が永遠に一緒に暮らしたいと思えるような行いをしなければなりません。」(『永遠の家族』『聖徒の道』1997年1月号, 73参照)

**中央扶助協会第二副会長 アン・C・ビングリー**——「女性がキリストを心の中心に据え、自分の生きる世界の中核とすることを選ぶなら、それは主を家庭と家族の中心に招き入れていることとなります。独りでも大家族でも同じです。どこに住んでいようと、どのような境遇にあらうと、家庭と家族の中心である一人一人の女性の心の中に据えられたものは、家庭環境や家族の精神に反映されるのです。」(『それゆえに、あなたがたは主キリストを選びなさい』『リアホナ』2003年11月号, 110) ■



# かぎ 神権の鍵

## 神権とその目的に関するシリーズの第9回



十二使徒定員会  
ラッセル・M・ネルソン

鍵は  
正当な権能を  
持っている者の  
あんしよ 授けられます。  
その権能は  
教会員に  
知られていなければ  
なりません。

**鍵**は大切なものであり、価値あるものです。ほとんどの人はどこへ行くにもポケットや財布に鍵を入れて持ち歩きます。けれども、大切に、価値があるばかりでなく、貴く、力があり、目には見えない鍵もあります。その鍵は永遠にわたって重要です。それが神権の鍵です。<sup>1</sup>

預言者ジョセフ・スミスはこう教えました。「教会の基本的な原則、管理形態、教義は、王国の鍵に帰属します。」<sup>2</sup> これらの鍵は、主イエス・キリストの名によって神権の権能を管理する権利を意味しています。また、ステーク、ワードや支部、伝道部や地方部、神権定員会、神殿など教会の地元の組織を管理する権利を含みます。鍵は正当な権能を持っている者の授けられます。その権能は教会員に知られていなければなりません。<sup>3</sup>

地上における神の王国のすべての鍵は、大管長会と十二使徒定員会の会員が持っています。前任使徒である大管長は教会全体を管理し、すべての鍵を余すところなく行使できる地上で唯一の人です。<sup>4</sup> 大管長はほかの神権者に、特定の職と召しにかかわる鍵を授けることによって、または鍵の授与を承認することによって権能を委任します。<sup>5</sup>

神権とは、人の救いの業に従事するために男性に委任される神の権能です。「これらの働きを指示する力が神権の鍵です。」<sup>6</sup> わたしたちは神権を持つことと神権の鍵を持つことと

をはっきりと区別しています。人が鍵を与えられるとき、さらなる神権を授けられるわけではありません。神権の業を指示する権利を受けるのです。

### 準備と承認

聖なる神権を持つ人がその務めを立派に果たすには、準備して、承認を受ける必要があります。一つの経験からそれを説明しましょう。十二使徒定員会に召される前、わたしは外科医として働いていました。二つの博士号を取得し、二つの専門医認定機構から認定を受けました。そのために長い年月をかけて準備しましたが、教育を修めたからといって、一般の人々に医療活動を行うことはできません。なぜでしょうか。それは法律に基づいて認可を受ける必要があるからです。

州政府の担当局と、わたしが勤務を希望する病院の理事会からその認可を受けなければなりません。正規の権限を持つ当局者から認可を受けて初めて、疾患を和らげるための外科的な処置を患者に施すことができるのです。正当な権能を持つ人がその鍵を行使してくれないければ、わたしは長年かけて準備してきた医療行為を実施することができませんでした。

わたしはこれらの特権を与えられた代わりに責任を負いました。法律と倫理上の規定を守り、託されている力を乱用しないという責任です。



医者という仕事(やほかの専門職)に就くために必要な、準備をし、認可を受けるという大切な段階は、神権の働きにも当てはめることができます。アロン神権者とメルキゼデク神権者には、神権の働きを行う権能があります。彼らは主の代表者として福音の聖なる儀式を執り行う権利を持っているのです。その働きを承認するのが鍵です。

神権の権能と神権の力の間にも明確な違いがあります。神権の職に聖任されると、権能が与えられます。けれどもその権能を義にかなって行使しなければ神権の力は生まれません。<sup>7</sup> このように、神権者には権能がありますが、力を持つためには備えなければなりません。そのためにふさわしい状態を保ち、神権の義務と教義を学び、実践する必要があります。

これらのことはなぜ大切なのでしょう。神の名によって行動する力はなぜそれほど大切なのでしょう。なぜ神権者は力をもって働けるよう備えることが大切なのでしょう。神権は永遠にわたって重要だからです。神権は過去、現在、未

来の地上のすべての男性、女性、子供に恵みをもたらします。神権を受けている人は、神のすべての子供たちに神権の力による祝福をもたらすために備えなければなりません。神権の鍵を持つ人は、それを賢明に、また義にかなって使う方法を理解する必要があります。<sup>8</sup>

### 神権の鍵の歴史

神権の鍵と権能が存在した時代を歴史上の3つの時期に分けることができます。すなわち古代、主がこの世で教え導かれた時代、そして近代です。

**第1の時期——古代。**神権の権能は地球が創造されるよりもずっと前から知られていました。預言者ジョセフ・スミスはこう語りました。「神権は永遠の原則であり、神とともに永遠から存在していて、永遠に存在し続けるものです。」<sup>9</sup> ブリガム・ヤング大管長(1801 - 1877年)はこれに付け加えて、神権は「律法であり、もろもろの世界は昔も今も、この律法によって成り立ち、これからも永遠にわたって存在し続けてい



くのです」と語りました。<sup>10</sup>

わたしたちは前世で神の霊の子供として生活していました。アブラハムもその一人でした。アブラハムは生まれる前から「治める者」(霊の指導者)となるように選ばれていたと告げられました。<sup>11</sup> 主なる神はその聖なる位に従って祭司を予任されたこと、またその先見の明によって世の基が据えられる前から彼らを備えてこられたことが聖文に記されています。このように、聖なる神権を受ける召しはわたしたちが生まれる前から告知されていたのです。<sup>12</sup>

アダムは世界が創造される以前に神権の権能を受けていました。<sup>13</sup> わたしたちは「神権は最初アダムに与えられた。アダムは大管長会の権能を持ち、代々の鍵を持っていた」<sup>14</sup> ことを知っています。神権は「先祖の血統を通して」アダムからモーセに至るまで代々授けられました。<sup>15</sup> 預言者ジョセフ・スミスは旧約時代の預言者について、「すべての預言者はメルキゼデク神権を持って[いた]」<sup>16</sup> ことを明らかにしました。

**第2の時期——主がこの世で教え導かれた時代。** 主はこの世で教え導いておられたときに、十二使徒に神権を授けて、神権の鍵の原則を明らかにされました。救い主は使徒ペテロに言われました。「わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう。」<sup>17</sup> 主はまた、ヤコブとヨハネにもこれらの鍵を授けると約束されました。<sup>18</sup>

その約束をお与えになってから1週間以内にイエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて高い山に登られました。そこで、主の指示を受けたモーセとエリヤ(エライアスとも呼ばれる)

はこれら3人の使徒に神権の鍵を授けました。<sup>19</sup>

主は弟子たちに「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた」<sup>20</sup> と語って、彼らの受けている権能がどこから来ているかを明らかにされました。

それから間もなくして救い主は十字架にかけられました。そして、初期の使徒たちがその務めを成し遂げる前に、背教が起きました。預言されていたように、神権の鍵を持つ人々の教えが拒まれ、聖なる儀式が汚されたときに背教が起きたのです。<sup>21</sup>

**第3の時期——近代。** 神権の鍵の回復はこの時満ちる神権時代に行われた多くの奇跡の一つです。<sup>22</sup> 預言者ジョセフが教えたように、「福音が送られるときはいつでも、天からもろもろの鍵がもたらされなければ[なりません。]」<sup>23</sup> 1820年に、天の御父と御子イエス・キリストは預言者ジョセフ・スミスに御姿を現されました。1829年5月には、バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けました。<sup>24</sup> そのときヨハネは「天使の働きの鍵と、悔い改めの福音の鍵と、罪の赦しのために水に沈めるバプテスマの鍵」<sup>25</sup> を授けました。その後間もなくして、預言者とその同僚であるオリバーは、ペテロ、ヤコブ、ヨハネからメルキゼデク神権を受けました。<sup>26</sup> ジョセフ・スミスは教会を組織し、宣教師を遣わし、神権指導者を聖任する鍵を受けたのです。

後に主はジョセフとオリバーに、神権のほかの鍵を託している人々について語られました。<sup>27</sup> 彼らは順に訪れて、以下の鍵をジョセフとオリバーに授けました。

古代に、  
神権は  
「先祖の  
血統を通して」  
授けられました。



● モーセはイスラエルの集合と十部族の導きの鍵を受けました。<sup>28</sup>

● エライアスはアブラハムの聖約の鍵を受けました。<sup>29</sup>

● エリヤは結び固めの権能の鍵を受けました。<sup>30</sup>

ジョセフ・スミスは、自分が管理する時代に召された使徒たち全員に、これらの回復された神権の鍵を受けました。<sup>31</sup> そしてこれらの鍵は教会の現在の指導者まで代々継承されてきました。現在、大管長は「創造の初めからいずれの時であっても神権時代を受けたすべての者」<sup>32</sup>が持っていたあらゆる鍵を実際に持っています。

1984年4月12日、わたしの人生において神聖な時が訪れました。その日、大管長会と十二使徒定員会の兄弟たちの手がわたしの頭に置かれたのです。それ以前に聖任された兄弟たちと同様に、神権のすべての鍵が授けられました。十二使徒定員会のすべての兄弟たちと同じように、わたしはこの終わりの時に回復された神権のすべての鍵を持っています。けれども、幾つかの鍵は先任使徒から特に指示を受けないかぎり、また先任使徒が亡くなったときを除いて使うことはありません。十二使徒定員会の会員は皆、責任の重みを感じており、大きな信頼を寄せられているゆえの重荷を背負っています。わたしたちは持っている鍵が「終わりの時のために最後に」回復されたものであることを知っています。<sup>33</sup>

### 義務と報告責任

神権の権能を授ける人が頭に手を置いて聖任し、任命するとき、それを受ける人と授ける人はともに義務と責任を負います。この点について説明しましょう。あなたが何か大切な物の鍵を持っているとします。自動車や家、高価な道具などです。だれかにその大切な物を使わせるために鍵を貸すとしたら、あなたはそれによって一定の義務を負うことになります。つまり貸主であるあなたは借主がうまく使えるようにする義務があるのです。そのため、あなたは借

主の安全を図ると同時に、あなたの大切な財産を守るための適切な指導と訓練を行います。借主も義務を負います。関連する法令を知ってそれを守り、あなたの財産を保全し、正しく使っていることを報告しなければなりません。

同じ概念を神権の鍵に当てはめることができます。神殿長、伝道部長、ステーク会長、地方部長、監督、支部長、定員会会長は、管理する神権の鍵を持っています。彼らはその鍵によって、それぞれの教会ユニットを管理します。これらの指導者は教会の使命を成し遂げるために、人々を召したり解任したりするだけでなく、召す人々を訓練し、職務を成し遂げる責任を彼らに与えます。このように、教会で奉仕する神権の務めや召しを受けた人は、従う義務と責任を報告する義務を持つのです。

執事、教師、祭司であろうと、長老、大祭司であろうと、すべての神権定員会には会長がいます。それぞれの会長は権能の鍵を持っています。定員会活動と奉仕を実施するには鍵を持つ会長の承認が必要です。定員会会長は鍵を持っていますが、副会長にはありません。補助組織の会長も持っていません。定員会の副会長や補助組織の会長は、鍵を持つ人から与えられる割り当てに基づいて働きます。そのときに活動するための権能を与えられるのです。

神権組織の召しを解任される人が鍵を授けられていた場合、それらの鍵は解任によって彼らの手を離れ、管理する神権役員から新しく召された指導者に授けられます。例えば、監督が解任されると、聖任された監督という神権の職はそのまま残りますが、ワードの監督として働く神権の鍵は、新しく召される監督に譲り渡されることになります。

### 啓示、忠誠、奉仕の特権

メルキゼデク神権を受ける人は「神の口から出る一つ一つの言葉に従って生き[る]」という誓詞と聖約を交わします。<sup>34</sup> そのように生活することによって、個人の啓示を受けるのにふさわしくなることができるのです。

神権の力を受けるためには、誠実であるこ

とも非常に大切です。召しと解任の鍵を持つ人に忠誠を尽くすことにより、一致ははぐくまれます。一致は成功するために欠くことのできない要素です。<sup>35</sup> 主は「もしもあなたがたが一つでなければ、あなたがたはわたしのものではない」<sup>36</sup>、また「イスラエルは、わたしがふさわしいと思うときに救われるであろう。わたしが与えた鍵によって彼らは導かれ、もはや決して乱されることはない」<sup>37</sup>と言われたとき、一致することの大切さを説明しておられました。

神権による奉仕の特権は、もし乱用するようなことがあれば取り上げられてしまうことを心に留め、その警告によく注意してください。これはだれにでも理解できることです。この警告は俗世の働きについても当てはまります。人の車を借りて、無謀な運転をすれば、その後は貸してもらえないでしょう。神権の権能も同じです。乱用すると、「主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」<sup>38</sup>

聖なる神権を持つ人は、そのかけがえのない特権に心からの感謝の念を持つ必要があります。わたしたちは世の基が置かれたときから、現在受けている責任に予任されていました。<sup>39</sup> その事実を知ると謙遜(けんそん)になります。聖なる神権を持ち、その神聖な鍵を託されている人々が、救い主から寄せられている信頼にこたえられるよう願っています。主が求めておられるように、賢くまた厳密に鍵を行使できるよう祈っています。■

#### 注

1. ラッセル・M・ネルソン “Keys of the Priesthood” *Ensign*, 1987年11月号, 36-39参照
2. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選(1976年), 21
3. 教義と聖約42:11参照
4. 教義と聖約132:7参照
5. 教義と聖約107:8-9, 91-92; 124:123参照
6. ジョセフ・F・スミス『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』(1998年), 140
7. ラッセル・M・ネルソン「個人の神権の責任」『リアホナ』2003年11月号, 44参照

**監督には管理する神権の鍵があります。監督は人々を召したり解任したりするだけでなく、召す人々を訓練し、彼らから報告を受けます。**

8. 神権の鍵に関して『教会指導手引き 第2部 神権指導者・補助組織指導者』165にその概要が記されている
9. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 157
10. 『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』139
11. アブラハム3:23参照
12. アルマ13:1-5参照
13. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 157, 167-168参照。教義と聖約78:16も参照
14. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 157
15. 教義と聖約84:15。教義と聖約84:6-17; 107:41-57も参照

16. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 181
17. マタイ16:19。教義と聖約128:10も参照
18. 教義と聖約7:7参照
19. マタイ17:1-5参照。 *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 158も参照
20. ヨハネ15:16。教義と聖約7:7も参照
21. 教義と聖約には同様の預言と約束が記されている。「そして、わたしの民が、わたしの声と、わたしの民を導くためにわたしが任命した僕たちの声（しもべ）に聞き従うならば、見よ、まことに、わたしは言うが、彼らはその場所から移されることはない。」(教義と聖約124:45)
22. 教義と聖約27:13; 128:18, 20-21参照
23. *Teachings of the Prophet Joseph Smith*, 157
24. 教義と聖約13章; 27:8; ジョセフ・スミス—歴史1:69, 72参照
25. 教義と聖約13:1; 107:20; ジョセフ・スミス—歴史1:69。教義と聖約129章も参照
26. 教義と聖約27:12-13参照
27. 教義と聖約27:6-13参照。モロナイはモルモン書の鍵も持っていた(教義と聖約27:5参照)。
28. 教義と聖約110:11参照
29. 教義と聖約110:12; ジョセフ・フィールディング・スミス『救いの教義』ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻(1954-1956年), 第3巻, 114-115参照
30. 教義と聖約27:9; 110:13-16参照。教義と聖約128:17-18, 21; 132:7, 19も参照
31. 『救いの教義』第3巻, 138-139参照
32. 教義と聖約112:31。30節も参照
33. 教義と聖約112:30
34. 教義と聖約84:44
35. 教義と聖約124:45-46参照
36. 教義と聖約38:27
37. 教義と聖約35:25
38. 教義と聖約121:37
39. アルマ13:1-5参照

# 揺るぎない 改心

わたしはかつて信仰心などありませんでしたが、  
福音が真実であると知ったときにすべてが変わりました。

バーツラフ・スポボドバ

幼いころからいつも、神は存在しないと教えられてきました。神についての考えが変わるなどは夢にも思わず、交換留学プログラムに出願しました。チェコ共和国の代表としてアメリカの高校へ行くのです。出願書類を記入する際に、「あなたの宗教は何ですか」という質問がありました。たいていのアメリカ人はクリスチャンであると知っていましたので、そのように記入しました。しかし実際のわたしは信仰心などありませんでした。

期待に胸をふくらませ、選考結果を待ちました。どんな所に暮らすことになるのでしょうか。

わたしはユタ州に住む Grant・ホドソン、ジュエル・ホドソン夫妻の末日聖徒の家庭にホームステイすることになりました。しかしユタとは一体どこでしょう。モルモン教徒とは何でしょう。またその家族はどんな人たちなのでしょう。書物でユタやモルモン教徒について調べたところ、教会について、特にジョセフ・スミスについて、大変ひどいことが書かれていました。わたしは家での最後の晩を泣いて過

ごしました。とても怖かったのです。

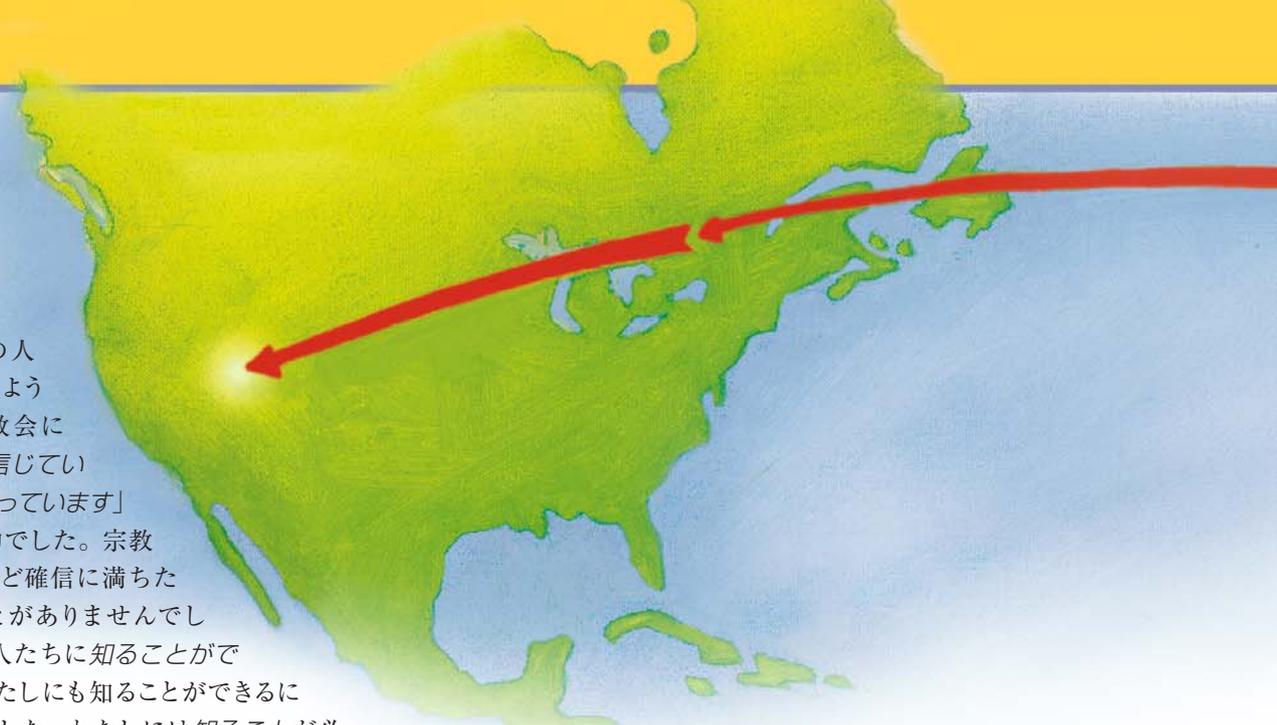
母は大丈夫だからと言い、万一その家族やユタ州になじめないならば、家に帰って来ることもできるし、別の家族と替えてもらうこともできると言ってくれました。

ユタに着くと、ホドソン家の娘、エミリーが迎えに来てくれました。16歳の彼女は普通のカジュアルな洋服を着ていて、とても親切でした。「心配したほど悪くないかもしれない!」

と思いました。家族の全員がとても温かく歓迎してくれたのです。

文化的な違いもかなり経験しました。ホストファミリーは、毎回の食事前と就寝前にいつも祈っていました。またアルコールを飲まず、たばこも吸わず、道徳的な生活を送っていました。わたしの知る10代の青少年の生活とは、すべて





正反対でした。

出会うすべての人が末日聖徒だったようですが、彼らが教会について語るとき「信じています」ではなく「知っています」と言うのが印象的でした。宗教について、それほど確信に満ちた言葉を聞いたことがありませんでした。そして、この人たちに知ることができたのだから、わたしにも知ることができるに違いないと考えました。わたしには知ることが必要でした。なぜなら、もし教会の教えを受け入れたならば、生活習慣や将来の計画さえ変える必要があるのですから。

教会が真実であることを自分自身で知りたいという強い望みをもって、ホストファミリーの模範をじっくりと観察しました。ホストファミリーはわたしを改宗させようとはしませんでした。その生き方を見て、その行動の裏側にあるものを知りたいと感じました。そのような強い信仰を見たことがなかったのです。

教会のある指導者が「人々は皆さんを知ることにより、キリストについて知りたいと思うようになるでしょう」と語るのを聞きました。わたしはホドソン家族と知り合うことにより、キリストについて知りたくなりました。ホドソン家族は、わたしにとって、家庭生活のすばらしい模範だったのです。

わたしは祈るようになりました。しかし3週間祈っていましたが、何も起きません。少し気を落としました。きっとわたしは神様の愛を感じるのにふさわしくないのだと思いました。

その週、毎月第1日曜日にホドソン家族が伝統的に自宅で開いている証会あかしに参加してみることにしました。ホストマザーのジュエルが、何か話したいことがあるかと言いました。わたしは「ええ」と答えましたが、その後で「何を話そうかしら」と考えました。

皆は様々なことへの感謝を述べていたので、わたしも、少なくともホドソン家族がしてくれたことへの感謝くらいは、話せるだろうと思いました。ホドソン家族はわたしにとっても忍耐強く接してくれました。わたしをほんとうの娘のように扱ってくれ、何事も決して押しつけるようなことはありませんでした。わたしは心からの感謝を表そうと思いました。

最後にわたしが話す番になりました。わたしは立ち上がり、ホドソン家族の親切と忍耐、また神についてわたしに教えた心から望んでいてくれたことに感謝を述べました。突然わたしは、強く、抑え難い感情に包まれました。もはや言葉の壁はなく、英語を話すことが少しも苦になりません。こんなに

滑らかに話すことができたのは初めてでした。こんな気持ちになったことはこれまでありませんでした。わたしは導かれるままに語りました。とても温かくすばらしい気分でした。静かな声がわたしにこう語っていました。「あなたは自分が語っていることが真実だと知っています。わたしが生きていることを、あなたは知っています。あなたは知っているのです。」

確かに、わたしは知ることができました！目に涙を浮かべて、わたしは座りました。「あの気持ちは何だったのかしら」と考えていると、まるでその問いを聞いていたかのように、ホストマザーが静かに言いました。「あなたが感じているのは御霊みたまよ。」わたしが思ったことはただ一つでした。「ほんとうだったんだわ!」

両親の許可を得たわたしは、末日聖徒イエス・キリスト教会に加わるためにバプテスマを施してもらおうよう、ホストファーザーにお願いしました。とても幸せな一日でした。自分がとても清く、新鮮に感じました！ホストファミリー以外にも、わたしを支えるために来てくれた多くのワードの会員に囲まれました。そのことにとても感謝しています。

ユタからチェコ共和国に戻ってみると、わたしは故郷のフラスタバ(人口約8,000人)でたった一人の教会員でした。それだけでなく、フラスタバから約6マイル(10キロ)離れたリベレッツ(人口約12万人)においてさえ、たった一人でした。ホテルの受付係として働きながら、私立高校で英語を教えていたわたしは故郷で新しい居場所を必死で探しました。もう半ばあきらめかけていました。けれども、毎晩ひざまずいて祈り、奇跡を求め、絶望から救い出されるように願い続けました。また、かつての悪い習慣や仲間たちから遠ざかるよう、必死で努力しました。

ついに祈りが聞き届けられました。教師として働いていたリベレッツに宣教師がやって来たのです。(後に知ったことですが、ホドソン兄弟がチェコ共和国の伝道部長に連絡を取り、わ



# バーツラフ (時々ウェ ンディーと

も呼ばれます)は、  
どこへ行っても  
福音を  
分かち合っています。  
バーツラフは  
「天の御父が

生きておられることと、  
この教会が  
御父の教会であることを  
あなたは  
すでに知っている」と  
みなま御霊が  
ささやいた晩のことを  
今でも覚えています。

たしのことを話してくれたのです。現在わたしの故郷には約40人の末日聖徒が集う支部があり、支部は発展しつつあります。）

その後わたしはブリガム・ヤング大学(BYU)アイダホ校に入り、BYUハワイ校で美術の学位を取得しました。BYUハワイ校での最良の経験の一つは、バレーボール部で活躍したことです。あの特別なキャンパスでわたしの証は深まりました。

現在わたしはチェコ共和国の故郷に戻っていて、福音のメッセージを広めたいと願っています。父と母は最初、わたしの生活がこれほどまでに変わったのを見て、気がどうかしてしまったのかと思っていました。しかし今では両親はわたしを完全に支えて

くれています。両親はわたしが受けた教育についても満足しています。

わたしは美術教師としても、人々に影響を与えることができると思います。この国の人々は福音を必要としています。そして、芸術も必要としています。わたしが知っていることを、みんなも知ってほしいのにはと思います。みんなに真実の幸福の計画を教えてあげたいのです。天の御父は、わたしの国の人々に福音を受け入れて、人生のほんとうのすばらしさを味わってほしいと望んでおられるのです。わたしには欠点がありますが、それでも天の御父はわたしを愛してください、最善を尽くせるように助けてください。これからもいつも神の導きを受けていきたいと心から願っています。■

バーツラフ・スボドバは  
チェコ・プラハ地方部、  
リベレツ支部の会員です。





# あなたがたの喜びはいかに大きいことか



ブラジル南地域  
地域七十人  
ロドリゴ・ミラ

天の御父は  
わたしたちを愛し、  
わたしたちが  
御心みこころにかなった方法で  
伝道し、  
教会員の活発化を  
図るように  
望んでおられます。

**教**義と聖約第18章を読むと、主がその子供たちを愛し、子供たちの救いのために、わたしたちに働くように望んでおられることがよく分かります。この章を読む度に、教会員の活発化と定着を図るために経験したいろいろなことが、心によみがえります。また、主を信頼し、求められている努力をするならば、主がわたしたちの働きを導いてくださるということを思い出します。

そうした経験の一つを紹介します。その出来事は、数年前に、ある敬虔な末日聖徒の家庭に育った青年のホームティーチャーとして、わたしが召されたときに始まります。進学のため親もとを離れたその青年は、教えられた真理とは異なる道を歩んでいました。毎月毎月、わたしは同僚と一緒に彼を訪問しましたが、いつも何の成果も上げることはできませんでした。わたしたちの言うことなど、まるで聞いていないかのようなのでした。しかし、試練が訪れ、困惑した青年は、問題をどう解決してよいか分からず、わたしたちホームティーチャーに助けを求めてきたのです。

当時、わたしはステーキ会長でした。彼の話によると、「真心から主を求める人の祈りに主は耳を傾けてくださる」という母親の教えを思い出したと言うのです。主に祈り求め、聖文を

読むようになったと打ち明けてくれたとき、主が彼の心に触れてくださったことが分かり、わたしは喜びに包まれました。

その後、以前にも増して彼を密接にフォローアップしようと決意したわたしは、彼をホームティーチャーの同僚にしてもらうことにしました。そして毎月わたしは彼と、担当する4家族を訪問しました。メッセージは家族ごとに違うものを準備しました。それはとりもなおさず、その青年を強め、再び福音の教えに積極的に従えるように助けたかったからです。やがて彼は、悔い改めて、教会の集會に忠実に出席し、敬虔な思いで聖餐せいさんを受ける決心をしました。主の犠牲が、生活に影響を及ぼし始めたのです。

彼とわたしは、家族の中で一人だけ教会員である男性を半年間訪問する機会がありました。わたしたち自身、一生懸命努力しましたし、いつも快く迎え入れてもらいました。けれども、この男性は相変わらず教会から遠ざかったままで、彼の妻も3人の子供もバプテスマを受けようとはしませんでした。あるときわたしたちは靈感を受け、日曜日に子供たちを迎えに行き、教会に連れて行くことにしました。3人の子供の送迎は、わたしの同僚の特別な責任になりました。

やがて努力が少しずつ実を結び始めました。教会に行くことが大好きになった子供たちは、間もなくバプテスマを受けました。両親にも教会に足を運んでもらおうとワードを挙げて取り組みましたが、彼らにはさらに主の御霊の働きかけが必要でした。

あるとき、それまでホームティーチングに行ってもめったに口を開こうとしなかったわたしの同僚が話し始め、心のこもった証<sup>あかし</sup>を述べました。かつて大変な困難を経験した彼が、主の腕の中で生活することのすばらしさを、今や人に語るまでになっていたのです。その証は、心のこもった、実に力強いものでした。御霊<sup>みたま</sup>が強く働きかけ、その場にいた皆が心を打たれました。それから1週間もしないうちに奥さんは宣教師の話<sup>ことば</sup>を聞く決心をして、やがてバプテスマを受けました。その兄弟も再び活発に教会へ集うようになりました。

その家族は今も活発です。そして、ワードにもすっきりなじみ、主の宮で家族の結び固めも受けました。わたしの同僚も、福音を通して目覚ましい成長を続けています。彼は、すばらしい女性と神殿で結婚し、今二人の子供がいます。そして、幸せな家庭を築き、ワードのため、教会のために貴重な働きをしています。

この経験を通して6人が福音に帰依しました。何という奇跡でしょう！ わたしは、聖文に述べられている喜びを実際に味わうことができました。

「人が悔い改めるとき、主の喜びはいかに大きいことか。

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶために召されている。

あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:13-16)

この経験を通してわたしは、3つの大切な原則を学ぶことができました。

1. 主がこの業の頭<sup>かしら</sup>であり、すでにその道を備えておられること。主は、わたしたちの伝道活動に心を留め、御自身も直接かかわっておられること。

2. ホームティーチャーと訪問教師は、よく準備をして定期的に訪問する必要があること。主の御霊とともに訪問すべきであること。また、訪問先の人たちの信頼を得る必要があること。

3. 人々の改宗や活発化を図る際に、ほかの人々にも加わってもらうことが大切であること。伝道の目的を達成できるように、ワードや支部の指導者は、伝道活動に関して評議会や神権役員会との相互調整を図ること。

わたしは、神がわたしたちの御父であられることを証します。神はわたしたちを愛し、わたしたちが御心<sup>みこころ</sup>にかなった方法で伝道し、教会員の活発化を図るように望んでおられます。そうするときにわたしたちは、神の愛する子供たちの救いのために、主の手の中で、力強い器となって働くことができるのです。■



# 君は モルモンなの？

一緒に働いていた同僚は末日聖徒を誤って認識していました。わたしたちがほんとうにクリスチャンであることを分かってもらうには、どうしたらよいでしょう。

アナ・リー・グラニエラ・ロペス

**大**学2年のとき、学生アシスタントとして大学図書館で働いていたわたしは、12月のある日、別のアシスタントと一緒に働くように言われました。会ったことのない人だったので、仕事をしながら努めて会話をしようと心がけました。学校や仕事、家族のことについて話しました。

夕方になると、彼は神を賛美する歌を歌い始めたので、どの宗教に属しているのか尋ねてみました。同じ質問が返ってくるのを期待しました。自分の教会についても話せるからです。期待どおり、同じことを聞かれたので、胸がドキドキしました。まさに伝道の好機です。わたしは満面の笑顔で、自分が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを伝えました。すると彼は驚いた顔をして、あまりうれしなそうに言いました。「モルモン？ 君はモルモンなの？ イエス・キリストを信じていない人たちだよね。」

聞こえのいい言葉ではありませんでした。イエス・キリストを信じていないなどと言われるのは、まったく予期していなかったのです。このような話は聞いたことがありましたが、今、目の前で起きているのです。何と言ったらよいので

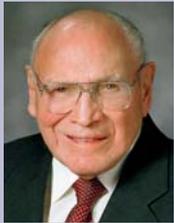
しょう。そのような言葉にどう答えたらよいのでしょうか。心に浮かんだ唯一の答えはこうでした。「でも、イエス・キリストの教会なのよ！」

若い女性のモットーである、「真理と義を守る」という言葉を心の中で繰り返し、行動に移さなくてはいけないことは分かっていました。でも、どうしたらよいのでしょうか。

わたしは、この教会がイエス・キリストの教会であることを示す幾つかの事柄を伝えました。末日聖徒がイエス・キリストを救い主として信じていることや、自分自身イエス・キリストが神の子供たちに対して抱いておられる愛を理解していることを話しました。また心の底からイエス・キリストを信じていて、イエス・キリストの教会の会員であること、そしてイエス・キリストを愛し、主の模範に従うように教えられてきたことを話しました。

同僚はそれ以上聞きたくないようでした。説明を続けようとしたのですが、非難めいた言葉を返されました。モルモン書についても、教会について語ったのと同じ調子でした。話を聞きたくないのがよく分かりました。わたしも彼の言うことに耳を傾けたくはありませんでした。論争しようとしていたからです。説明を続けるべきではないと思い、自分の証<sup>あかし</sup>を述べました。これ





## クリスチャンとは どのような人 ですか？

「末日聖徒イエス・キリスト教会とその会員たちはクリス

チャンではないと、誤って信じている人たちがいます。真理とは程遠いそのような考えを受け入れ、広めている人たちを見て、なぜそのようなことができるのか理解に苦しみます。……



辞書の定義によれば、クリスチャンとは「イエスをキリストとして信じていることを公言している人々、あるいは〔イエスの生涯と教え〕に基づいた宗教に従う人々」であり、また「イエスの教

えに従って生活する人々」です。こうして見ると、クリスチャンには二つの特徴があることが分かります。一つは、救い主を信じていると公言していることであり、もう一つは、救い主の教えと調和した生活を実践していることです。聖徒、あるいは末日聖徒と呼ばれる忠実な教会員は、この二つの特徴をはっきりと兼ね備えています。わたしたちは、信仰においても行いにおいても、『キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である』ということを実証しています[エペソ2:20]。』

### 十二使徒定員会

ジョセフ・B・ワースリン

「信仰にも行いにもクリスチャンである」

「聖徒の道」1997年1月号、

80参照

まで語ったことはすべて真実であると伝えたと、確信を得ることができました。

図書館を出ると、「どうしたら教会に対してあんな言い方ができるのだろうか？」と困惑しました。そして証を述べたときに抱いた気持ちについて考え、彼にも自分なりの方法で気持ちを表す機会を与えるべきだったのかと思いました。わたしは怒りと恐れを感じ、「ああ言えばよかった」「こう言えばよかった」と考えました。彼が考えを変えなかったのも、わたしは挫折感を味わい、自分の霊性が低いのではないかと疑いました。わたしは失敗したのでしょうか。

家へ帰る途中、わたしは祈りました。嫌な思いを取り除きたかったのです。今まで教えられてきたことが真実だと確信し、天の御父がわたしのしたことを喜んでおられると感じたいと思いました。祈りは最良の手段でした。そして祈りと聖霊の力によって、同僚に何と言ったらよいか、またどのように証をしたらよいか分かり、天の御父が喜んでおられることを知りました。

この経験を通して、わたしたちの教会がイエス・キリストのまことの教会であり、主が迫害を受けられたように、主の教会も迫害されるということを知ることができました。また、イエス・キリストの福音と主の教会に対する確固とした証を持つことの大切さを学びました。

教会員の若人は皆、確固とした証を得るよう努める必要があると思



ます。そうすれば、人の考えを変えられるかどうかにかかわらず、人に証を述べることができます。証を述べる時、その人の証は強められます。そして、少なくとも人の心に種をまくことができます。たとえ、そのときは興味を示さなくても、わたしたちが信じていることについて、もっと多くを知ることができるのです。■

アナ・リー・グラニエラ・ロベスは、プエルトリコ・マヤグエースステーク、カボロホ第2ワードの会員です。

## どのように答えたらよいでしょうか

主の言葉を忘れないでください。「わたしの言葉を告げようとしないで、まずわたしの言葉を得るよう努めなさい。そうすればその後、あなたの舌は緩められる。それから望むならば、あなたはわたしの御霊とわたしの言葉、すなわち人々を確信に導く神の力を受けるであろう。」(教義と聖約11:21)

救い主に関する教会の基本的な教義を学び、理解したら、自分がキリスト教会に属していることを以下のような方法で人に伝えることができます。

- 教会の正式名称は、末日聖徒イエス・キリスト教会であり、その他の名称は単なる俗称であることを説明する。
- 教会員は聖書を信じていることを伝え、イエス・キリストを証するモルモン書の聖句を示す。
- 福音の回復、すなわちジョセフ・スミスは偉大な預言者であり、キリストの教会を地上に回復したことを説明する。

## さらに読みたい方へ

このテーマについてさらに読みたい方は、[www.lds.org](http://www.lds.org) をご覧ください。「福音図書館」(Gospel Library[英語])に以下の記事が掲載されています。リチャード・C・エッジリー, “A Disciple, a Friend” (*Ensign*, 1998年5月号); スティーブン・E・ロビンソン, “Are Mormons Christians?” (*New Era*, 1998年5月号); ロバート・E・ウエルズ, “We Are Christians Because...” (*Ensign*, 1984年1月号)



### なぜわたしたちは十字架を使わないのでしょうか?

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は以前、ある牧師から、なぜ末日聖徒は十字架を身に付けたり、建物に飾ったりしないのかという質問を受けました。

ヒンクレー大管長はこう答えました。「『聖堂の尖塔や禮拜堂の祭壇に、また式服や書物などの上にも十字架を付けていらっしゃる皆さんの考えに異論を差し挟むつもりはありませんが、わたしたちにとって、十字架は死に瀕したキリストの死を象徴するものです。しかし、わたしたちが世の人々に伝えたいと願っているのは、生けるキリストにほかならないのです。』

すると〔牧師は〕こう尋ねてきました。「十字架を使わないというのでしたら、あなたがたの宗教の象徴は一体どのようなものなのでしょうか。』

わたしはそれに対して、こう答えました。「教会員の生き方そのものが、わたしたちの信仰を最も体現する意義深いものとならなければなりません。』

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー  
「わたしたちの信仰の象徴」  
『リアホナ』2005年4月号, 2

- 可能な場合は、地元の訪問者センターへ連れて行く。救い主の絵や像を見せて、宣教師と話してもらう。
- 教会へ一緒に行くように誘い、教会員が救い主を信じていることをその人自身の目で確かめてもらう。
- 教会の基本的な教義の詳しい説明は、[www.mormon.org](http://www.mormon.org) の「頻繁に尋ねられる質問」の項の「信条と教義」を参照するように言う。
- あなたの言うことを受け入れようとしない場合、議論してはならない。救い主について証を述べ、あなたが知っていることは真実であると伝える。
- 人々があなたの証を信じなくても、拒絶されたと思うことはない。たとえ拒絶されたとしても、あなたの知っていることは真実であり、これは神のまことの教会であることを忘れてはならない。あなたがクリスチャンであることを証明するような生活をする。

# セミナーに 飛び込む

アダム・C・オルソン

教会機関誌

**大** 海原のどこか真ん中にある美しい熱帯の島、そよ風が花のように香り、ヤシの木が天に向かって伸びるその島の上で、末日聖徒の若人は聖文の力を発見しています。

島の名前は「集まる所」を意味するタヒチ、この島で、多くの若い男性と女性が毎日、早朝5時15分に教会に集まって、聖文を学習し、福音がどのように生活を変えるかについて学んでいます。

フランス領ポリネシアには117の島があり、タヒチもその一つです。タヒチのセミナーには、ポリネシアの幾つかの島と同様に、多くの若人が出席します。朝早く起きるのは確かに大変ですが、祝福の方が犠牲に勝ることに気づいているのです。

「なかなか大変です」とタヒチ・アルエステーク、マヒナワードのバイティアレ・ティモ(17歳)は語ります。「でも、逃げ道はありません。来るしかないのです。主がわたしのためにくださったすべてのことのために、わたしは主にお任せしなくてはならないのです。」

若人がセミナーに出席する理由は様々です。学ぶため、理解するため、応用するため、友人を見つけるため、日々の様々な問題を解決する助けを得るため、伝道や結婚に備えるため、改心するため、主に仕えるため、平安を感

じるため、安全を見いだすためにやって来ます。このような目的はすべて、そしてさらに多くのことがセミナーで達成できることに、彼らは気づいているのです。

## 聖文に夢中になる

タヒチ・パエアステーク、オロフェロワードのレーモンド・チャップマン(15歳)はこう語ります。「聖文や預言者たちの生涯についてもっと知るためにセミナーに来ています。理解したいのです。」

レーモンドのように、聖文に関する知識を深めたい若人にとって、セミナーは最適の場所です。セミナー教師が次のような言葉を口にするのも珍しいことではありません。「わたしたち教師は聖文が生徒の生活に欠かせないものとなるよう、生徒の興味を聖文に向けさせようと努力しています。」

生徒たちが聖文に夢中になり、聖文が生活に欠かせないものとなっていることは明らかです。

18歳になるカレレ・ティホが最近気に入っている聖句は教義と聖約第10章5節です。「勝利者となるために、まことに、サタンに打ち勝つために、またサタンの業を支えるサタンの手下どもの手から逃れるために、常に祈りなさい。」

「サタンの影響力はとて強くなっています」

タヒチの若人は  
聖文の学習に  
夢中です



「預言者の生涯はわたしたちの模範です。」

ベンジャミンのクラスメート、ルミア・テマウリ(14歳)は、ヨセフがエジプトに売られたときに触れて、「わたしはヨセフが兄弟たちを救<sup>ゆる</sup>すところが好きです」と語ります。「家族と望ましい関係を築くための方法を教えてくれる良い例です。参考になります。」

ベンジャミンとルミアのセミナー教師、アリオティマ・マヒラバ姉妹は、毎週、マスター聖句を一つ学び、実践するよう生徒にチャレンジしています。

とマヒナワードの会員、カレレは語ります。「毎朝、セミナーの前に、誘惑から守られるよう祈っています。そのおかげで守られています。」カレレは肩をすくめてこう言いました。「もちろん、ぼくは完全ではありません。でも、これまで、祝福されて誘惑に抵抗できました。」

カレレのように生徒が学んだことを実行し始めると、聖文の力によって、文字どおり生活が変わり始めます。

「セミナーは福音を生活に応用するのに役立ちます」とオロフェロワードのベンジャミン・トゥアヒバ(14歳)は語ります。

**カレレ・テイホ、  
バイティアレ・ティモ、  
ケント・マナラニ(下)、  
ルミア・テマウリ(左)  
にとって、セミナーは  
聖文を理解する  
だけでなく、  
生活に応用するうえで  
助けとなりました。**



それぞれの聖句カードの裏には、教えられている原則を日々の生活に応用する方法が提案されています。マヒラバ姉妹は、1週間その提案に従って生活し、それによって受けた祝福について、クラスで証を分かち合うようチャレンジしています。

「福音は日曜日だけのものではないことを生徒は理解し始めていると思います」とマヒラバ姉妹は語ります。「福音が生徒を輝かすのを目の当たりにできるのはすばらしいことです。」

### セミナーの祝福

フランス領ポリネシアのセミナーの生徒は、セミナーに出席できる機会に感謝しています。彼らは多くの祝福を受けていて、それらが自分たちの忠実さのゆえに与えられたことを理解しています。

「モルモン書が神の御言葉であるという知識を持っていることは、ほんとうにすばらしい祝福です」とカレレは語ります。「モルモン書はわたしたちの宗教のかなめ石です。モルモン書は、天の御父とイエス・キリストに帰依するよう導いてくれます。わたしは御二方を心から愛することができるようになりました。」

生徒は預言者の言葉と経験にどれほどの価値があるかについても理解できるようになりました。

「聖文から学ぶ物語を通して日々助けを受けています」とバイティアレは語ります。「昔の預言者の経験が現代のわたしたちの生活にも役立つのです。近代の預言者の経験からも助けを受けています。特に、ジョセフ・スミスの経験がそうです。」

「今後も、セミナーから助けを受けることになるはずです」とカレレは語ります。「毎朝福音について学ぶためにセミナーに通うことが、伝道の備えになることを知っています。教え方や、証の仕方を身に付けることができるからです。」

### 信頼できる友人を見つける

セミナーに通う生徒は、個人的に強められているだけではありません。生徒たちはともに集うときに力を感じています。

「同じ時間帯に幾つかのクラスが



### セミナーの友人

「皆さんが……努力しながら、インスティテュートやセミナーに出席していることに感謝します。また、福音の

教えの中だけでなく、人々との交わりの中においても、それらの場に備えられている様々な祝福に皆さんが気づかっていることに感謝しています。皆さんに申し上げたいことがあります。教会員の中に自分の友人となる人を見つけてください。固いきずなをつくり、互いに強め合うようにしてください。そうすれば、誘惑の時が来ても、必要なときに、祝福をもたらし、力を与えてくれる、頼もしい友を持つことができます。」

大管長 ゴードン・B・ヒンクレー  
「生ける預言者の言葉」  
「聖徒の道」1998年8月号、16参照

行われています」とバイティアレは語ります。「ですから、ほかのクラス、ほかのワードの生徒とも知り合う機会があります。わたしたちのほとんどが同じ学校に通っているのです、セミナーを通して会員の友人を見つけることができます。」

同じ標準を持つ友人がいることで、セミナーの生徒は、学校でも信念を貫き通すのが容易になります。

「わたしたちは会員でない友人と行動を共にすることがよくあります」とバイティアレは語ります。「でも、時には、同じ信仰を持っていることを分かり合っている、信頼できる人がいるのはすばらしいことです。」

### 末日における安全

バイティアレにも好きな聖句があります。少なくとも、聖文学習を通じて同じくらい助けになる聖句を見つけるまでは、この聖句がいちばん好きな聖句ということになることでしょう。それはヨハネの黙示録第1章3節です。「この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。」

「聖文は聖文を読む人に真理を教えてくれます」と彼女は語ります。「預言者の語る言葉はわたしたちの

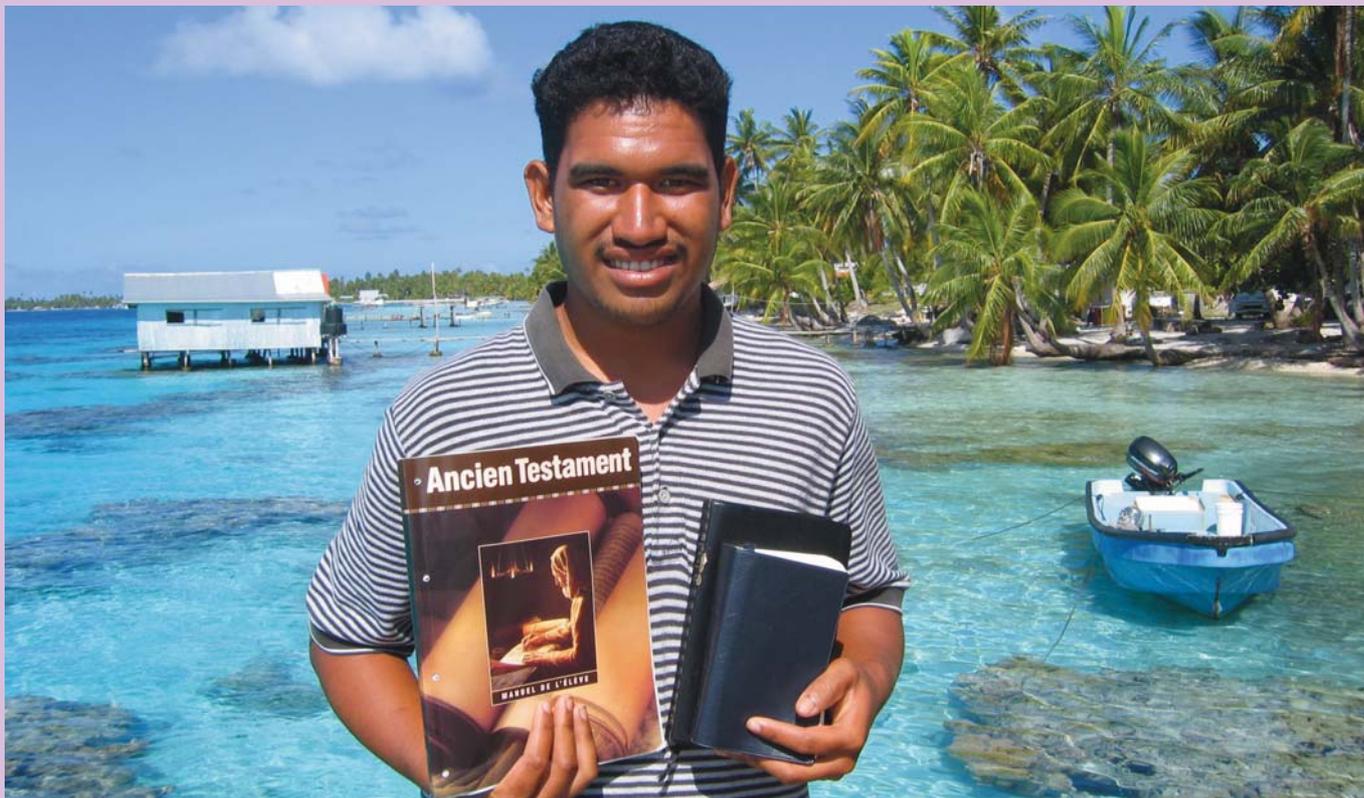
指針となります。聖文と預言者の言葉に従うならば、この末日の世にあって

も安全です。」  
これこそセミナーに集い、聖文に

夢中になるもう一つの理由です。■



レーモンド・チャップマンは  
セミナーで聖文を楽しく学んでいる。



## 日没後のセミナー

リチャード・M・ロムニー

教会機関誌

**夕** ヒチの北東400マイル(600キロ)に位置するタカロア島では、セミナーは早朝ではなく、夕方に行われています。毎週水曜日、太陽が沈むところに、ヒナ・ガーバット姉妹は回復された福音について生徒に教えます。末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師がこの地で初めて伝道を開始したのは1850年代ですが、ガーバット姉妹はその当時に確立された方法に従って教えています。実は、この島のセミナークラスは1890年代に建てられた礼拝堂の横で開かれているのです。

セミナーは、タカロア島に住む10代の若人が受けられる唯一の学校教育です。小学校はありますが、中学校に進学する場合、選択は一つしかなく、はるか離れた別の島にある全寮制の学校に通わなければなりません。

「この若い男性には祭司しかいません」とトゥアモトゥ・タカロア地方部、タカロア第2支部のテトゥアレレ・テマハガ(上, 17歳)は語ります。「執事と教師の兄弟たちは皆、学校があるのでいないのです。でも、6人の祭司と3人の若い女性がこの島に残っていて、セミナーに集っていま

す。みんなセミナーのことを自分の学校だと思っています。ですから、出席するのです。たくさんの方を学んでいますし、一緒にいるのが楽しいのです。セミナーのおかげで学び続けることができます。」

タカロア島の若人のほとんどがそうですが、テトゥアレレも真珠養殖場で働いています。朝の4時30分には起きなければならず、日中は海に飛び込み、泳ぎ、カギをぎっしりつるしたロープをボートに引き上げるのです。ほかの若人、例えばヒナヌイ・テヒナ(14歳)やタピウ・ティノ(15歳)のような若い女性(右)は一日中働いて、カギをナイロンロープに縛り付け、水の中に戻せるようにします。このような方法で真珠を養殖するのです。真珠の養殖はタカロア島の島民が生計を立てるための手段になっています。「わたしたちはこの島で必要とされています」とタピウは語ります。彼女はしばらくの間全寮制の学校に通っていましたが、多くの悪い影響を受けることが分かったので、愛する人々と過ごせる家族のもとに戻って来ました。

長い労働が終わった後で、タカロアの若人はどんな活動をしてつろぐのでしょうか。「大したことはしていませんよ」とテトゥアレレは笑います。「テレビを見ます。とは言っても見たい

番組はあまりないですけど。泳ぐこともあります。いちばん多いのは魚釣りです。食べるためにも釣りますし、ただの遊びで釣ることもあります。」

日曜日と水曜日は特に楽しい日です。「日曜日には、もちろん教会へ行きます。水曜日の夜はセミナーです」とヒナヌイは語ります。「わたしたちは福音につ

いてたくさんの方を学びます。」テトゥアレレは、セミナーで学んだたくさんの方の原則の中から一つを話してくれました。神殿の大切さについてです。「神殿はこの世のものを持ったまま行けるところではありません。そこは主の家であり、清くなければ入ることはできません。」

実際、この島でセミナーに集う生徒が楽しみにしている一つの目標は、稼いだお金をためて、ほかの支部の会員と一緒にタヒチの神殿に行くことです。「わたしたちは死者のためのバプテスマを受けます」とヒナヌイは語ります。「これは素晴らしい目標です。教会で学ぶことも、セミナーで学ぶことも、すべて、主の家にわたしたちの心を向けさせてくれます。」■





わたしたちはたちまちその<sup>さま</sup>に見入ってしまいました。彼の背筋はぴんと伸びて、軍服も勲章も身に着けていないのに、まるで軍人のように見えました。年老いても誇り高い軍人の物腰だったのです。彼はゆっくりと、しかし確信に満ちて感動的な経験について語り始めました。

彼は第二次世界大戦中、大地が血と苦痛と死に覆われていた戦闘地域で、歩兵大隊に所属していました。彼の隊を指揮する軍曹は、並々ならぬ厳しい人で、部下から嫌われていました。ある恐怖の夜、迫撃砲がその軍曹の近くで爆発し、軍曹は致命傷を負いました。部隊長が1台の老朽化したト

ラックを止めました。そのトラックは、負傷兵や<sup>ひんし</sup>瀕死の兵を介護や埋葬のために戦線から遠ざける目的で巡回していたのです。

隊員は遠くから瀕死の上官の悲運を見詰めていました。彼を助けようとする人はだれもいませんでした。部隊長は、軍曹をトラックに運んで安全な場所まで付き添う役目を志願する者はいないかと尋ねました。し

かし、だれも名乗り出ませんでした。

少しの間があり、テムズ兄弟が前に進み出ました。そのときのことを、彼はこう話してくれました。「わたしは哀れみの気持ちに満たされ、この不幸な人を運んで、付き添って行こうと思いました。彼にとって長く苦しい旅の間、わたしはできる限りの介抱をしました。

その後戻って自分の隊を探しました。戦線に着くと、わたしがいなかった夜、激しい爆撃戦により多数の死者が出たことを知りました。わたしの隊の兵士

**瀕** <sup>ひんし</sup>死の軍曹を助けた人は

いませんでした。少しの間があり、テムズ兄弟が前に進み出ました。

## 哀れみの気持ちに満たされ

フアン・アルド・レオーネ

**日**曜日の集会が始まる前に教会員たちが集まってあいさつをする中、やせた老人のテムズ兄弟は離れて独りで座っていることがよくありました。テムズ兄弟は小柄で、身なりは質素でした。最近バプテスマを受けたばかりで、家族はいませんでした。彼のスペイン語は通じないわけではなかったものの、ポルトガル語、フランス語、ドイツ語、英語、そして母国語のハンガリー語が混じってしま

た。彼と親しくなろうと努める会員たちと交わす短い会話で、彼は遠く離れたハンガリーのことを話しました。

ある日監督が彼に<sup>せいさん</sup>聖餐会での短い話を依頼しました。彼は驚きつつも引き受けました。わたしたちも彼が話者として紹介されたときには驚きました。きっと短くて簡単な証<sup>あかし</sup>になるだろうと思いました。

しかしこの兄弟が説教台の前に立つと、みるみる顔つきが変わっていき、

たちは、わたし以外全員死亡していました。そして、自分は救い出されたのだと悟りました。わたしは哀れみの気持ちを感じさせてくださったことを、神に感謝しました。神はわたしの命を救い、こうして、回復された福音を聞く機会を与えてくださったのです。」

それまでわたしたちはこの腰の曲がった老人に対して単に好意を抱いていただけでしたが、このときから彼を高く評価し、称賛するようになりました。そして彼が、キリストの純粋な愛を模範によって示してくれたことに感謝するようになりました。■

ファン・アルド・レオーネはアルゼンチン、コルドバ・シエラスステーク、ピラアジェンデワードの会員です。

## ヘッドライトに 照らされたシカ

アーリーン・ハウスマン

**何**年も前の話です。夫を学校に車で送って行った帰り道、ユタの山脈内の溪谷を通らなくてはなりませんでした。

わたしは生まれたばかりの娘、エイプリルを連れていました。これはチャイルドシートのなかった遠い昔の話です。ですから毛布にくるまれたエイプリルを助手席のクッションの上に寝かせ、わたしのひざを枕代わりにさせていました。

夜遅く運転していたので、眠気覚ましに最近教会で歌った賛美歌「主よ、われと共に」(『賛美歌』94番)を歌っていました。歌っているうちに、雨が降り出しました。溪谷に差しかかると、雨が雪に代わり、やがて道路を覆うよう



## じゅうぶん 什分の一を 納められるだろうか

アナ・クリスティーナ・メリノ・リバス

**わ**たしはバプテスマを受けて間もなく、教会員ではない男性と結婚しました。夫はわたしが稼ぐお金を全額管理し、決してわたしに什分の一を納めさせてはくれませんでした。

10年間、不幸な結婚に耐えましたが、その間、什分の一を納めることはできませんでした。ついにわたしは離婚し、娘を養育するようになりました。しかしながら、わたしの稼ぎでは、家賃、水道光熱費、食費、衣料費やほかの必需品を賄うのに十分ではありませんでした。もしどれかにお金を使えば、ほかのものに使えなくなるという状態でした。



わたしはある日、とりあえず什分の一を納め始めることにしました。そしていつものように引き続き家計のやり繰りについて考えました。そして収入

は以前と何も変わっていないのに、すべてに十分なお金があることに気づいたのです。最初は自分の身に起きていることが信じられませんでした。そこでわたしは聖書の次の聖句を読みました。「これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、

あなたがたに注ぐか否かを見なさい……。」(マラキ3:10) わたしはひざまずき、主に感謝の祈りをささげました。主は決してわたしをお見捨てにならなかったのです。■

アナ・クリスティーナ・メリノ・リバスはユタ州プロボ・ノースパークステーク、ノースパーク第2ワードの会員です。

になりました。

狭い2車線道路のカーブを曲がると、シカの群れが前方に見えました。あわててブレーキを踏んだため、車が滑り出してしまいました。右側は山、左側はがけ崖で、その下は川になっています。まっすぐに進む以外選択肢はありません。片手でハンドルを握り、もう片方の手で娘をしっかりと押さえ、衝撃に対する覚悟を決めました。ところが驚いたことに、シカはわきに寄り、道を開けてくれたのです。

無事にシカの群れの中を通

過すると、わたしはバックミラーをのぞいてみました。シカはヘッドライトに照らされて身動きが取れなくなっていたわけでも、散らばったわけでもありませんでした。シカは通常、恐怖を感じるとそのような行動に出るものなのです。ただ後ずさりをして、この小さなフォルクスワーゲンが通れる分だけの場所を開けてくれたのでした。わたしにはまるで紅海が右と左に分かれたかのように思えました。わたしは神が「われと共に」おられたことを、10マイル(約16キロ)の道のりを行く中感謝しました。

家に帰り、車から降りると、ひどい惨事になっていてもおかしくない状況であったのに実際にはそうならなかったという事実をひしひしと感じ始めました。そして涙があふれました。たっ



た1匹のシカにでも衝突していたら、この小さな車はひどく破損し、子供もわたしもけがをしていたことでしょう。この出来事は最寄りの農家から5マイル(約8キロ)も離れた所で起き、溪谷を通っている間もその後の家路でも、ほかの車と一度もすれ違うことはありませんでした。わたしは子供を腕に抱き、危険から守られたことを神に感謝し、喜びの涙を流しました。■

アーリーン・ハウスマンはワシントン州オーバーンステーク、ホワイトリバーワードの会員です。

## 「モルモン出入り禁止」

匿名

**わ**たしたちは田舎の小さな町に引っ越して来ました。そこにはあまり教会員が住んでいませんでした。わたしたちの小さな支部は親しみやすく、きずなの強いグループで、わたしたちは毎週安息日と教会に集う機会を楽しんでいました。唯一の気掛かりは子供たちのことでした。支部の中には彼らと一緒に遊べる年の近い子供がほとんどいませんでした。夫とわたしは、教会外に友達を作る方法を見つけることにしました。それは子供に新しい友達ができ、ほかの宗教の人とも知り合えるよ

**カーブを曲がると、シカの群れが前方に見えました。あわててブレーキを踏んだため、車が滑り出してしまいました。**

うにするためでした。

しかしわたしの希望はすぐにくじられました。地元の子供クラブの指導者は、わたしたちがモルモンだからという理由で、クラブに入会させるわけにはいかないと言うのです。モルモンの少ないほかの地域でも似たようなクラブに所属したことがありましたが、これまで一度も宗教が

問題になったことなどありませんでした。わたしは布教活動をしたり、だれかに宗教を強要したりすることは絶対なく、わたしたち家族はただ友達を作って、人々と知り合いになりたいだけだから心配は無用であると指導者たちに伝えました。しかし彼らの決心が揺らぐことはなく、わたしたちを入会させてはくれませんでした。

わたしはキリストのように親切になり、この町の人たちに対して感じよく接しようと決めました。そうすれば末日聖徒イエス・キリスト教会の会員が善良な人たちであると分かってくれるでしょう。わたしたちは知り合いを作ろうとよその家の子供たちを我が家に呼んで遊ばせたり、近所の家族を食事に招待したり、いろいろな人としゃべりをしたりするようになりました。さらにわたしは、フェローシップ、親切、奉仕などについての総大会の説教や教会機関誌の記事、聖文を読みました。

そしてこのような原則を生活で実践するように努力しました。この町の人に末日聖徒の家族は親切で優しいと思ってもらうことができるならば、あの子供クラブはそのうちきっとわたしたちを受け入れてくれるであろうと確信していました。

しかし時は流れ、子供クラブの指導者たちとも親しくなれたものの、彼らは「モルモン出入り禁止」という立場を固く守っていました。

わたしは引き続き善き隣人でいよう、そしてこの町の人たちに親切にしようと決心しました。それと同時に、隣の町に行き、似たような子供クラブを捜してみようとも思いました。しかしそれでもモルモンはクラブに入会させるわけにはいかないと言われてしまいました。こうなるとわたしも挫折感にさいなまれるようになり、泣きたい気持ちになりました。この二つの町の人々は一体どうなっているのでしょうか。わたしたちが親切で陽気な家族であることが分からないのでしょうか。

わたしはできるかぎり親切でキリストのような特質を備えた人になれるよう御霊の導きと助けを祈り求めました。またわたしを知る人が、わたしたちが善良な人であると心で感じられるようにと祈りました。そして彼らが心の変化を経験し、その結果わたしたちを受け入れてくれるよう祈りました。それでもまるで祈りはこたえられていないかのように感じました。どんなに努力しても、彼らの心を和らげることはできませんでした。

そんなある晩、1本の電話によって、わたしの希望は粉々に打ち砕かれてしまいました。クラブの指導者たちが電話をかけてきて、前に告げたように、わたしたち家族をクラブに入会させるつもりはないと言ったのです。さらに、わたしたちが町にたくさんの友達を作

れば、いずれクラブに入れるなどという期待を抱いているのではないかと自分たちは懸念しているのだ、とも言いました。そして罵倒<sup>ばとう</sup>してきました。わたしは絶望して泣いてしまいました。夕食に招待したり、奉仕活動をしたり、クッキーを持って行ったり、道端でおしゃべりをしたりしたのは、この人たちには何の意味もなかったのです。わたしの何がいけなかったのでしょうか。

わたしはその晩、教会に対してこれほどまでに悪感情を抱いている人々と接することについて助けが得られるよう、誠心誠意で祈りました。わたしは努力したので、彼らから好かれる権利があると思っていました。そして天の御父にそう説明しました。

すると、「キリストに従いなさい」という答えを受けました。このように力強く答えを感じられたのは、久しぶりのことでした。

この答えにはしばらく困惑しました。「分かりました。でも、もうそうしています」と思いました。クッキーを持って行ったり、友情を築いたり、手を差し伸べたり、わたしはできるかぎりキリストのようにしていました。それでもわたしが感じた気持ちは「キリストに従いなさい」というものでした。

間もなくわたしは、キリストに従うことに全力を傾けていれば、他人の意見にあまり振り回されないで済むというこ

とに気づきました。わたしが人に仕えるのは、それが正しいことだからであり、末日聖徒であるわたしのイメージアップにつながるからではないのです。わたしが親しさを込めて振る舞い、近所の人と触れ合おうとするのは、そうしたいと感じるからであり、親しくするのに自己中心的な理由があるからではないのです。

それ以来、宗教が理由でわたしたちを嫌う人のことで心を悩ますことがある度に、「キリストに従いなさい」がわたしのモットーとなってきました。今では、わたしの親切に対して人がどのような反応を示そうと、わたしは奉仕することに喜びを感じるようになっていきます。そう感じられるわたしは恵まれていると思います。わたしは人から認めってもらうために地上に来たわけではありません。わたしが地上に来たのは、天の御父のもとに戻る備えをするためであり、戻るための唯一の方法は、救い主に従うことなのです。■

**地**元の  
子供クラブの  
指導者たちは、  
わたしたちが  
モルモンだから  
という理由で、  
クラブに入会させる  
わけにはいかないと  
告げました。





### 預言者の勧告に感謝します

『リアホナ』に対する感謝の気持ちを述べたいと思います。世界中の末日聖徒の証<sup>あかし</sup>を読むと喜びでいっぱいになります。特に2004年9月号の大管長会メッセージに感謝しています。ヒンクレー大管長はメッセージの中で、悪に対抗するために声を上げるよう勧告していました。家族を強めるよう呼びかける記事は、毎日霊を鼓舞してくれます。預言者と世界中の聖徒を結びつける機関誌に感謝しています。

コロンビア・ネイバステーク  
ベンティラドルワード  
カロライナ・テホ・バルガス

### 神殿の御霊<sup>みたま</sup>

神殿を通して生活にもたらされる気持ちが大好きでした。けれども、神殿に参入できない地域に伝道に召されたとき、その気持ちを2年間得られないのではないかと心配になりました。そのとき、天の御父から一つの贈り物が与えられていることに気づきました。わたしたちはその贈り物を通して、どこに住んでいようと神殿とよく似た気持ちを味わうことができます。『リアホナ』に非常に感謝しています。この機関誌のメッセージを読むとき、神殿で得たのと同じ御霊を受けます。

ブラジル・ゴイアニア伝道部  
アラン・ヘルベルト・シルバ長老

### 鉄の棒のように

『リアホナ』があることを天の御父に心から感謝します。教会員になってからの5年間、『リアホナ』は鉄の棒のように、わたしを細くて狭い道にとどまらせてくれました。『リアホナ』は、主が預言者を通して御自分の教会と教会員を導いておられるという証を強めてくれました。

エクアドル・グアヤキル南ステーク  
カルデロンワード  
ジャビエル・エンリケ・ボールケズ・ザンブラーノ

### 『リアホナ』は幸せにしてくれます

『リアホナ』が大好きです。子供のページは楽しいし、助けになるおもしろい物語もあります。わたしは、正義を選ぶのを助けてくれる、善い友達を慎重に選んでいます。そして良い言葉遣いをしよう、良い態度を執ろうと努力しています。

メキシコ・  
グアダハラ・インデペンデンシアステーク  
オデイトリオワード  
レホンティ・メルキセデク・ラモス・オチョア  
9歳

### 強さの源

『リアホナ』にどれほど感謝しているか言葉で言い表すことはできません。試練に満ちたこの世にあって、『リアホナ』は力の源です。預言者のメッセージを読むと、神がわたしを愛してくださっていると感じます。これ以上何が必要だと言うのでしょうか？

フィリピン・アラミノス地方部  
アラミノス第1支部  
メアリー・アン・D・ランチス

## 才能を 輝かしましょう!



**プ**ロの芸術家が写真家で、教会機関誌とのフリーランスの仕事に興味がある方は、下記までご連絡ください。フリーランスの仕事では、特定の締め切り内に、美術編集作品やドキュメンタリー作品を作る能力が要求されます。

作品のデジタルサンプルを10点まで(PDFまたはJPEGのファイルで1通のメールにつき1.5Mb)、および連絡先と簡単な職歴を [cur-artist-photographer@ldschurch.org](mailto:cur-artist-photographer@ldschurch.org) まで送信してください。またはあなたの情報と作品のコピーを次の住所まで郵送してください。

Artists and Photographers,  
Liahona, 50 East North  
Temple Street, Floor 24,  
Salt Lake City, UT  
84150-3220, USA



「小さな事柄が大きくなり、  
愛や信仰、しつけ、犠牲、忍耐、労働など  
無数の糸によって、  
家族のつづれ織りができていくのです。」  
ジェームズ・E・ファウスト副管長  
「無数の愛の糸」2ページ参照